

Microsoft®
Windows Server® 2008 Standard /
Microsoft®
Windows Server® 2008 Enterprise

インストール補足説明書

for Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj,
120Rh-1, 120Rj-2

目次

0 はじめに.....	- 4 -
■ 本書に記載の「光ディスクドライブ」について.....	- 4 -
1 Windows Server 2008 インストール手順概略	- 5 -
2 Windows Server 2008 をインストールするための準備.....	- 6 -
■ インストールに必要なもの.....	- 6 -
■ 差分モジュールのダウンロードについて	- 6 -
3 注意事項.....	- 8 -
■ ライセンス認証の手続きについて	- 8 -
■ 差分モジュールがサポートしているオプションボード	- 8 -
■ 「システムのアップデート」について.....	- 10 -
■ ミラー化されているボリュームへのインストールについて	- 11 -
■ MO 装置について.....	- 11 -
■ DAT 等のメディアについて	- 11 -
■ RDX 等の周辺機器について	- 11 -
■ BIOS のアップデート	- 11 -
■ RAID コンフィグレーションについて.....	- 11 -
■ システムパーティションのサイズについて	- 12 -
■ BitLocker について.....	- 14 -
■ ESM/ServerAgent の使用について	- 14 -
4 Windows Server 2008 のインストール	- 15 -
5 修正モジュールの適用	- 25 -
6 システムのアップデート	- 26 -
7 ドライバのインストールと詳細設定	- 28 -
■ LAN ドライバと PROSet のインストール.....	- 28 -
■ オプションネットワークボード.....	- 29 -
■ アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ.....	- 30 -
■ ネットワークドライバのセットアップ.....	- 31 -
■ SCSI コントローラ(N8103-75/95/107)を使用する場合.....	- 33 -
■ Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合	- 33 -
■ グラフィックスアクセラレータドライバ.....	- 33 -
8 障害処理のためのセットアップ	- 34 -
■ メモリダンプ（デバッグ情報）の設定.....	- 34 -
■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法	- 40 -
■ ネットワークモニタのセットアップ手順	- 40 -
■ ネットワークトレースの採取手順	- 41 -
9 ライセンス認証の手続き	- 42 -
10 トラブルシューティング	- 47 -
11 Windows Server 2008 のアップグレードインストール	- 50 -
■ Windows Server 2008 へのアップグレードインストールについて	- 50 -
■ アップグレードインストールをする前に	- 50 -

●注意事項.....	- 50 -
●グラフィックアクセラレータドライバについて	- 51 -
●PROSet について	- 51 -
■ アップグレードインストール手順概要.....	- 53 -
■ アップグレードインストール	- 54 -
■ アップグレードインストール後のドライバインストール.....	- 60 -
● 本体装置内蔵の RAID コントローラ を使用する場合	
RAID コントローラ(N8103-116/117/118) を使用する場合	- 60 -
●ATA/ATAPI コントローラのドライバインストール	- 61 -
●SCSI コントローラ(N8103-107)を使用する場合	- 62 -
●SCSI コントローラ(N8103-75)を使用する場合	- 63 -
●SCSI コントローラ(N8103-95)を使用する場合	- 64 -
●Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合	- 64 -

0 はじめに

本手順書は、Express5800 シリーズ「Express5800/ 110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2」で使用するオペレーティングシステム「Microsoft® Windows Server® 2008 Standard または、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise」（以降、「Windows Server 2008」と呼ぶ）をインストールする方法について記述しています。

<Windows Server 2008 日本語版>

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 64-bit (x64) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 64-bit (x64) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit (x86) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit (x86) Edition

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 64-bit (x64) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 64-bit (x64) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 32-bit (x86) Edition
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 32-bit (x86) Edition

Windows Server 2008 をインストールする前に、必ず最後までお読みください。



- Windows Server 2008 for Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 対応差分モジュールは、Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。
- OS インストールメディアに含まれる Hyper-V がベータ版の場合、サポートは提供されませんのでご注意ください。
また、Hyper-V のサポートについては、別途『NEC8 番街』<http://nec8.com> を参照してください。

[Hyper-V の動作条件]

- 64-bit (x64) ベースのプロセッサで Windows Server 2008 (x64) のオペレーティングシステム
- ハードウェアによる仮想化 がサポートされていること
- データ実行防止 (DEP) 機能がサポートされていること

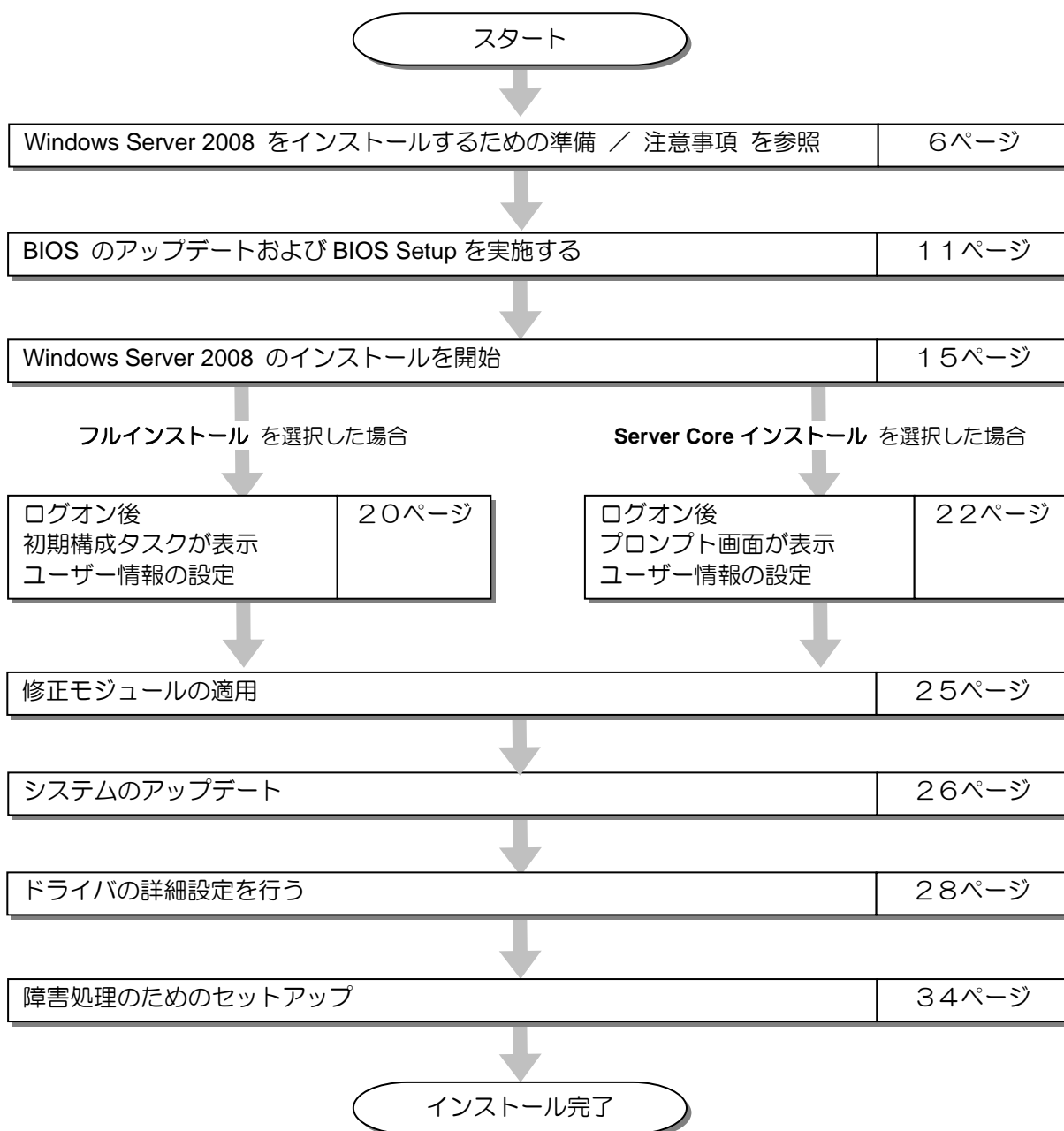
■本書に記載の「光ディスクドライブ」について

本書では、次のドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

1. CD-ROM ドライブ
2. CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ
3. DVD-ROM ドライブ
4. DVD Super MULTI ドライブ
5. DVD-Combo ドライブ
6. DVD-RAM ドライブ

1 Windows Server 2008 インストール手順概略

Windows Server 2008 のインストール手順概略図を次に示します。
必ず新規インストールを実施してください。



OS インストール完了後、各種アプリケーション（ESMPRO/Server Manager, Server Agent など）のインストールが必要な場合はそれぞれのインストーションガイド（手順書）を参照しインストールを行ってください。

2 Windows Server 2008 をインストールするための準備

Windows Server 2008 インストールを開始する前に、ハードディスク環境（アレイのコンフィギュレーション情報など）を装置に添付の「EXPRESSBUILDER」からユーザズガイドなどを参照のうえ確認してください。

■ インストールに必要なもの

次のモジュールと手順書がそろっていることを確認してください。

- **Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 対応 Windows Server 2008 差分モジュール [WS2008.10-001.01]**
(以降、「差分モジュール」と呼ぶ)

ダウンロード方法については、「■ 差分モジュールのダウンロードについて」(6ページ)を参照してください。差分モジュールを CD-R 等にコピーする場合は CD-R をご用意ください。

- **Microsoft® Windows Server® 2008 Standard / Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise インストール補足説明書 for Express5800/ 110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 (本書)**

- **OS インストールメディア** ※以下のいずれかのご購入が別途必要です。

- **NEC 製 OS インストールメディア**
(以降は、「バックアップ DVD-ROM」と呼ぶ)
- **Microsoft 社製 OS インストールメディア**
(以降、「Windows Server 2008 DVD-ROM」と呼ぶ)

- **Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの**
 - － EXPRESSBUILDER DVD
 - － ユーザズガイド
(EXPRESSBUILDER DVD のメニュー画面から「→ドキュメントを読む」を参照)

■ 差分モジュールのダウンロードについて

「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ次の手順で Express5800 /110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 対応 Windows Server 2008 差分モジュールをダウンロードしてください。

- ① 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 対応 Windows Server 2008 差分モジュールをダウンロードしてください。

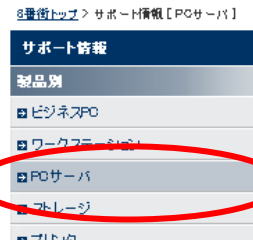
<ダウンロード方法>

- (1) 『NEC 8 番街』 <http://nec8.com> を開く
- (2) [→ サポート情報] をクリックする。

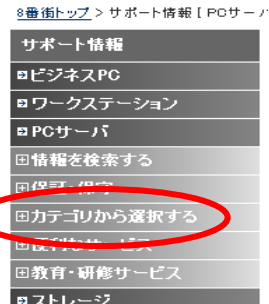


- (3) [サポート情報] から [→ PC サーバ] をクリックする。

『サポート情報 [PC サーバ]』が表示されます。

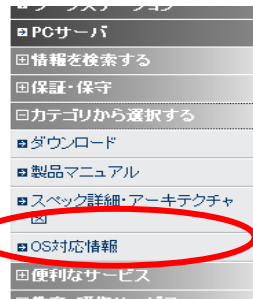


- (4) 『サポート情報 [PC サーバ]』から [→PC サーバ] から [+カテゴリから選択する] をクリックする。



- (5) [+カテゴリから選択する] から [→ OS 対応情報] をクリックする。

「OS 対応情報 (100 シリーズ /SIGMABLADE)」画面が表示されます。



- (6) [□ OS 対応状況] から [Microsoft Windows Server 2008 サポート情報] をクリックする。

- (7) 該当するモデルの「Microsoft Windows Server 2008 サポートキット」を参照し、入手してください。

- ② モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに解凍する。
(例：C:\TEMP)



ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

- ③ CD-R 等にコピーする場合は、手順②で解凍したファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にして CD-R へコピーする。



CD-R は、Windows でアクセスできる形式 (オレンジブック準拠 や OS 標準機能など) で書き込みしてください。

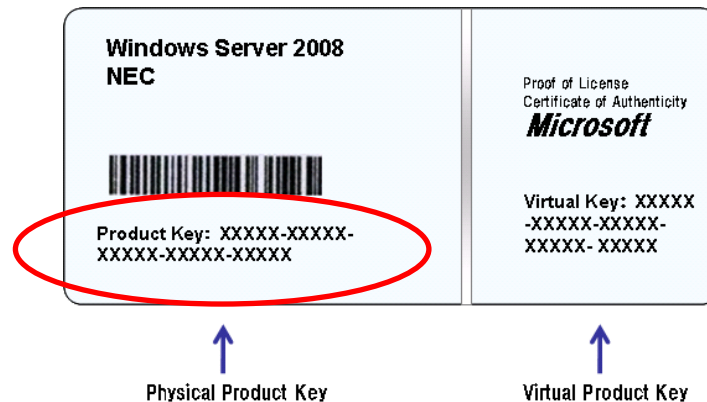
- ④ CD-R のコピーが完了したら、手順②にてコピーしたハードディスクドライブのファイル・フォルダはすべて削除する。

3 注意事項

Windows Server 2008 をインストールする前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

■ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2008 のライセンス認証を行う際に使用するプロダクトキーは、COA(Certificate of Authenticity)ラベルに記載されたプロダクトキー(Physical Product Key)と一致させる必要があります。



詳細は「ライセンス認証の手続き」(42ページ)を参照し確認してください。



重要

- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
- Virtual Product Key は仮想環境下でインストールする場合に使用します。物理サーバ上に OS を直接インストールする場合には使用しません。



ヒント

COA ラベルは購入された OS インストールメディアのパッケージまたは本体装置に貼付されています。

■差分モジュールがサポートしているオプションボード

差分モジュールでサポートしているオプションボードは、以下になります。

【Express5800/110EI, 120Gd】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード
 - N8103-116 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1)
 - N8103-117 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1/5/6)
 - N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)
- その他のオプション
 - N8103-75 SCSI コントローラ
 - N8103-95 SCSI コントローラ
 - N8103-107 SCSI コントローラ
 - N8104-112 1000BASE-SX 接続ボード
 - N8104-119 1000BASE-T 接続ボード

- 8 -

- N8104-120 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-121 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

【Express5800/110Ri-1, i110Ri-1】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード
 - N8103-116 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1)
 - N8103-117 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1/5/6)
 - N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)
- その他のオプション
 - N8103-75 SCSI コントローラ
 - N8103-95 SCSI コントローラ
 - N8103-107 SCSI コントローラ
 - N8190-127 Fibre Channel コントローラ(4Gbps/Optical)
 - N8190-131 Fibre Channel コントローラ(2ch)(4Gbps/Optical)

 - N8104-109 1000BASE-SX 接続ボード
 - N8104-115 1000BASE-T 接続ボード
 - N8104-122 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
 - N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

【Express5800/120Ei】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード
 - 本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当)
 - N8103-116 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1)
 - N8103-117 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1/5/6)
 - N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)
- その他のオプション
 - N8103-75 SCSI コントローラ
 - N8103-95 SCSI コントローラ
 - N8103-107 SCSI コントローラ

 - N8104-112 1000BASE-SX 接続ボード
 - N8104-119 1000BASE-T 接続ボード
 - N8104-120 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
 - N8104-121 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
 - N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

【Express5800/120Lj】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード
 - 本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当)
 - N8103-117 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1/5/6)
 - N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)
- その他のオプション
 - N8103-75 SCSI コントローラ
 - N8103-95 SCSI コントローラ
 - N8103-107 SCSI コントローラ

- N8190-127 Fibre Channel コントローラ(4Gbps/Optical)
- N8190-131 Fibre Channel コントローラ(2ch)(4Gbps/Optical)

- N8104-112 1000BASE-SX 接続ボード
- N8104-119 1000BASE-T 接続ボード
- N8104-120 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-121 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

【Express5800/120Rh-1】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード

- 本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当)
- N8103-116 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1)
- N8103-117 RAID コントローラ(128 MB, RAID0/1/5/6)
- N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)

- その他のオプション

- N8103-75 SCSI コントローラ
- N8103-95 SCSI コントローラ
- N8103-107 SCSI コントローラ
- N8190-127 Fibre Channel コントローラ(4Gbps/Optical)
- N8190-131 Fibre Channel コントローラ(2ch)(4Gbps/Optical)

- N8104-119 1000BASE-T 接続ボード
- N8104-120 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-121 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-122 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

【Express5800/120Rj-2】

- 差分モジュールで OS のインストールをサポートしているボード

- 本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当)
- N8103-118 RAID コントローラ(256 MB, RAID0/1/5/6)

- その他のオプション

- N8103-75 SCSI コントローラ
- N8103-95 SCSI コントローラ
- N8103-107 SCSI コントローラ
- N8190-127 Fibre Channel コントローラ(4Gbps/Optical)
- N8190-131 Fibre Channel コントローラ(2ch)(4Gbps/Optical)

- N8104-119 1000BASE-T 接続ボード
- N8104-120 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-121 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-122 1000BASE-T 接続ボード(2ch)
- N8104-125 1000BASE-T 接続ボード(4ch)

■ 「システムのアップデート」について

「システムのアップデート」は Express5800 シリーズに必要なドライバを適用します。
必ず 差分モジュールを使って、「システムのアップデート」を行ってください。

■ミラー化されているボリュームへのインストールについて

ダイナミックディスクに変換したハードディスクドライブに再インストールする際、シンプルダイナミックボリュームにのみインストールできます。

〔ディスクの管理〕を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成や解除、および削除は〔コンピュータの管理〕の〔ディスクの管理〕から行えます。

■MO 装置について

インストール時に MO 装置を接続したままファイルシステムを NTFS に設定するとファイルシステムが正しく変換されない場合があります。

ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO 装置を外してインストールを最初からやり直してください。

■DAT 等のメディアについて

セットアップでは、DAT 等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

■RDX 等の周辺機器について

セットアップを開始する前に、お使いのハードウェア構成によっては周辺機器を外したり休止状態に設定を変更する必要がある場合があります。

それぞれの周辺機器のマニュアルを参照し、周辺機器を適切な状態にした後セットアップしてください。

■BIOS のアップデート

Windows Server 2008 をインストールするためには、Windows Server 2008 用の BIOS のアップデートが必要な場合があります。

BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8 番街』 <http://nec8.com> - [サポート情報] - [→ PC サーバ] - [サポート情報[PC サーバ]] - [→ PC サーバ] から [+カテゴリから選択する] - [→ OS 対応情報] - [OS 対応情報(100 シリーズ/SIGMABLADE)] - [□OS 対応状況] - [Microsoft Windows Server 2008 サポート情報] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。また、アップデート手順に関しては、各装置の BIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

■RAID コンフィグレーションについて

ハードディスクを RAID 構成にて運用する場合は、Windows Server 2008 インストールを開始する前に、RAID を構築しておく必要があります。

事前にハードディスク環境（アレイのコンフィグレーション情報など）を装置に添付の「EXPRESSBUILDER」からユーザズガイドなどを参照のうえ確認してください。

■システムパーティションのサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

<Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 11,600MB
	(フルインストールを選択した場合)
	= 4,100MB
	(Server Core インストールを選択した場合)
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 300MB
アプリケーションサイズ	= 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。そのため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み（メモリダンプ種別）に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ+300MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが 512MB で フルインストールを選択した場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$$11,600\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 300\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} \\ = 13,180\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- ① 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- ② 「障害処理のためのセットアップ」（34ページ）を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

<Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 6,300MB
	(フルインストールを選択した場合)
	= 2,200MB
	(Server Core インストールを選択した場合)
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 300MB
アプリケーションサイズ	= 任意



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。そのため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+300MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBでフルインストールを選択した場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$$6,300\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 300\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} \\ = 7,880\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- ① 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- ② 「障害処理のためのセットアップ」（34ページ）を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

■BitLocker について

BitLocker をご利用になる場合、下記の点に注意してください。

- OS をインストールする前に、あらかじめ2つのパーティションを、ハードディスクドライブに作成する必要があります。
 - システムパーティション (ローダが入るパーティション)
 - ブートパーティション (OSが入るパーティション)



チェック

詳細については、Microsoft TechNet で公開されている 下記資料を参照してください。

「ステップ バイ ステップ ガイド - Windows Server 2008 の BitLocker ドライブ暗号化」

- 回復パスワードは、BitLocker を使用するサーバ以外の安全な場所に、必ず保存／保管してください。



重要

回復パスワードがない場合、OS を起動させることができなくなり、BitLocker で暗号化したパーティションの内容を2度と参照できなくなります。

回復パスワードは、次の作業実施後の OS 起動時に必要となる場合があります。

- マザーボードを交換した
- TPM を初期化した
- BIOS の設定を変更した

- BitLocker で暗号化したパーティションに OS を再インストールする場合、あらかじめ BitLocker で暗号化したパーティションを削除してください。

■ESMPRO/ServerAgent の使用について

Windows Server 2003 から Windows Server 2008 へのアップグレードの場合は、WDT およびシャットダウン監視の設定値が初期値になります。このため、ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネルで現状の設定値をご確認のうえ、再設定が必要となります。

ESMPRO/ServerAgent の Windows Server 2008 への対応については ESMPRO の関連情報をご確認ください。

4 Windows Server 2008 のインストール

ここでは、Windows Server 2008 の新規インストール方法について説明します。
次の手順に従ってインストールします。

1. システムの電源を ON にする。



重要

Windows Server 2008 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8 番街』
<http://nec8.com> - [サポート情報] - [→ PC サーバ] - [サポート情報 [PC サーバ]] - [→ PC サーバ] から [+カテゴリから選択する] - [→ OS 対応情報] - [OS 対応情報 (100 シリーズ/SIGMABLADE)] - [□OS 対応状況] - [Microsoft Windows Server 2008 サポート情報] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

2. バックアップ DVD-ROM または、Windows Server 2008 DVD-ROM を光ディスクドライブにセットする。

3. システムを再起動する。

<Ctrl>+<Alt>+キーを押すか、電源を OFF/ON し再起動してください。



重要

- ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されている間に <Enter> キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。
- Windows のインストール画面 (手順 4 の画面) が表示されなかった場合は、<Enter> キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

DVD-ROM から起動します。

「Windows is loading files ...」のメッセージが表示されます。

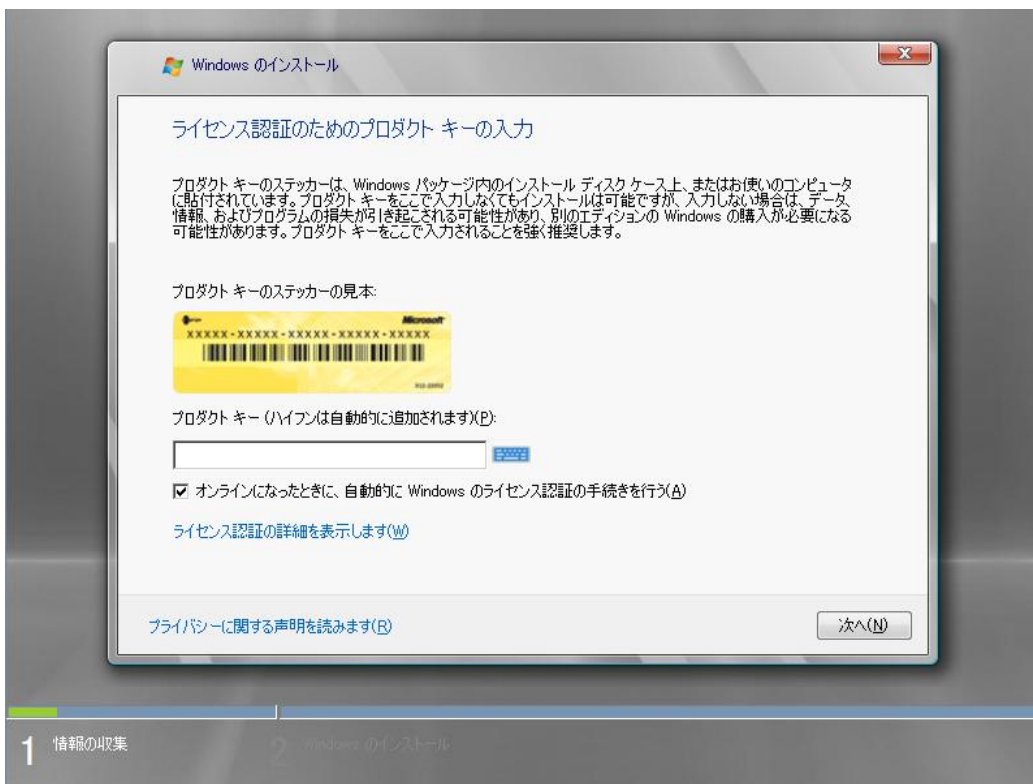
4. 以下の画面が表示されたら、言語とその他の項目を入力してから [次へ] をクリックする。



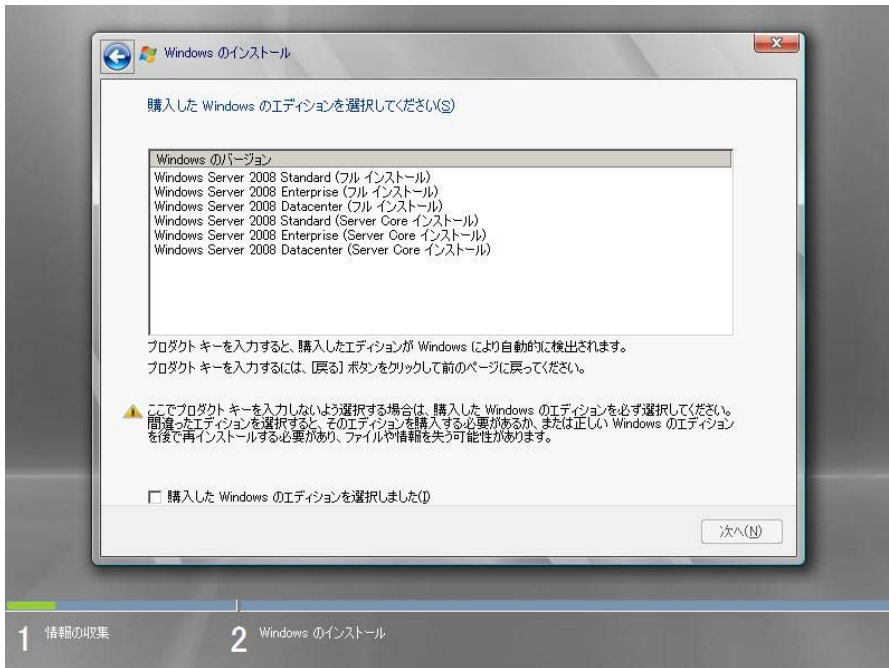
5. 以下の画面が表示されたら、[今すぐインストール] をクリックする。
Windows Server 2008 のインストールを開始します。



6. 以下の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力し [次へ] をクリックする。
バックアップ DVD-ROM をご使用の場合は表示されませんので、次へ進んでください。

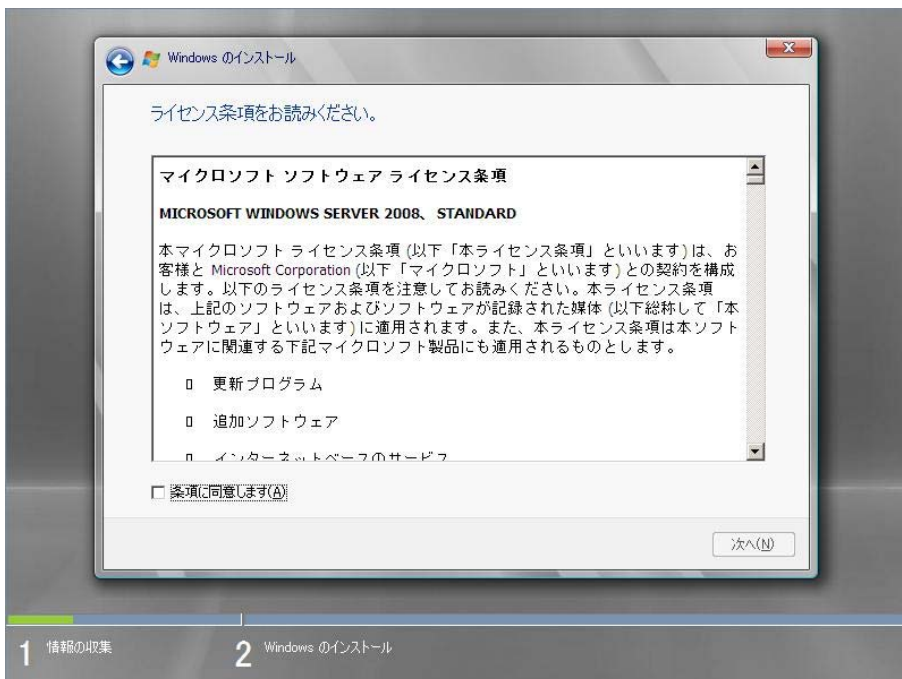


7. 以下の画面が表示されたら、購入した Windows のエディションを選択する。
[購入した Windows のエディションを選択しました]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。
プロダクトキーを入力すると、該当するエディションのみが表示されます。

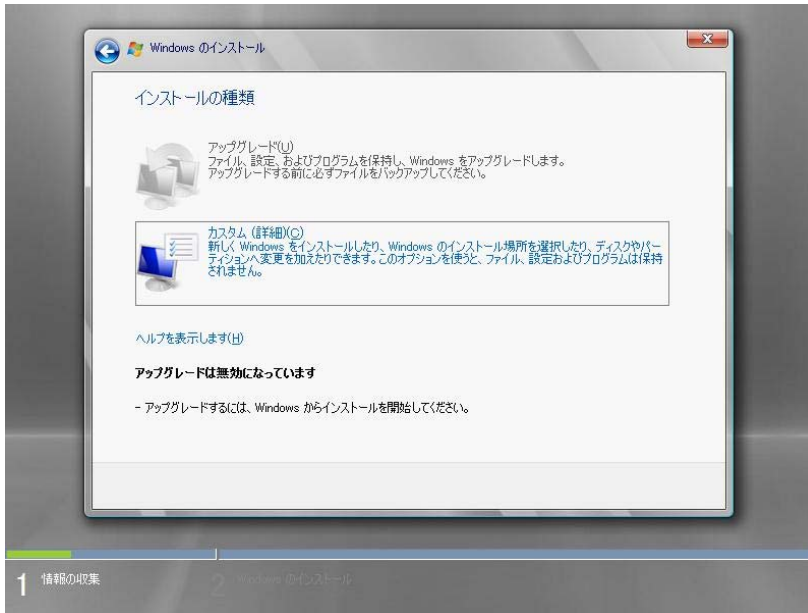


画面に表示される Windows のバージョンは、ご使用の OS インストールメディアによって異なります。

8. 以下の画面が表示されたら、ライセンス条項の内容を確認し、同意する場合は、[条項に同意します]にチェックを入れ [次へ] をクリックします。



9. 以下の画面が表示されたら、インストールの種類を選択する。
ここでは、[カスタム (詳細)] をクリックします。



10. 「Windows のインストール場所を選択してください。」画面が表示されます。
以下のいずれかを使用している場合は手順 1 1 へ進んでください。
以下のいずれも使用していない場合は手順 1 2 へ進んでください。

- 本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当)
- N8103-116
- N8103-117
- N8103-118

11. [ドライバの読み込み] を選択します。

以下のメッセージが表示されるので、OS インストールメディアと差分モジュールの入ったメディアを光ディスクドライブから入れ替えを行い、[参照]をクリックしてください。

ドライバの読み込み
ハードドライブへのアクセスに必要なデバイスドライバをインストールするには、ドライバ ファイルが含まれているメディアを挿入してから、[OK]をクリックしてください。
注：インストール メディアは、フロッピーディスク、CD、DVD、または USB フラッシュドライブです。
<input type="button" value="参 照"/> <input type="button" value="O K"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

フォルダの参照ダイアログが表示されるので、ドライバを格納している（差分モジュールをコピーした CD-R など）フォルダパスを選択し[OK]をクリックしてください。

- Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合
<ドライブレター>: ¥winnt¥oemfd¥ws2008x64¥fd1

- Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合
＜ドライブレター＞: `¥winnt¥oemfd¥ws2008¥fd1`



ヒント

例えば、Dドライブのtempフォルダに差分モジュールがある場合は、以下ようになります。

- Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合
`D:¥temp¥winnt¥oemfd¥ws2008x64¥fd1`
- Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合
`D:¥temp¥winnt¥oemfd¥ws2008¥fd1`

ドライブが格納されているフォルダパスを選択すると、対象のドライブが表示されます。表示されているドライバリストから以下を選択し、[次へ]をクリックして手順12へ進む。

[LSI Logic MegaRAID SAS 8708EM2 RAID Controller]

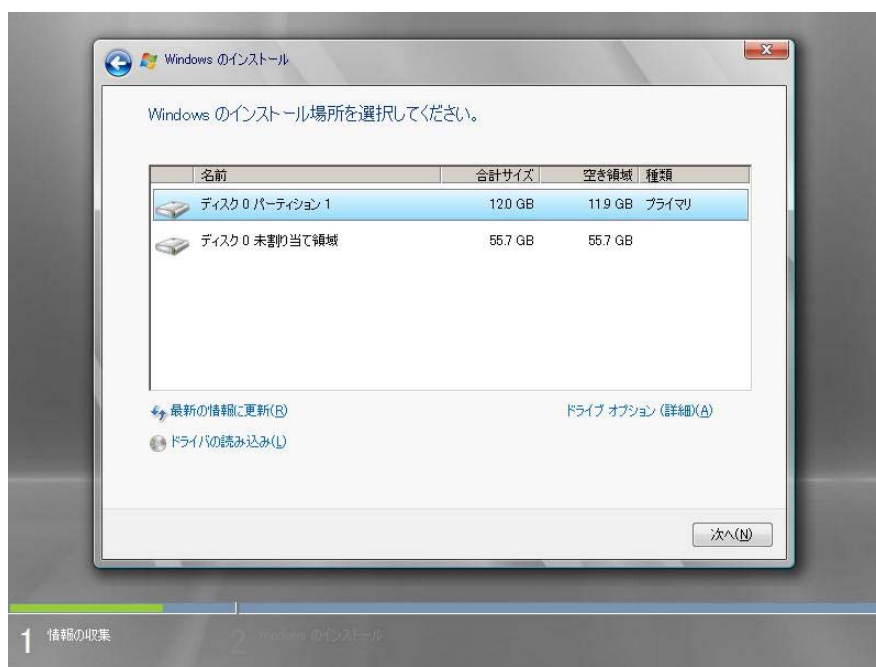
12. パーティションを作成するディスクを選択し [ドライブオプション] をクリックする。



重要

既にパーティションを作成している場合は、手順15へ進んでください。

13. [新規] をクリックし、表示されたサイズ入力ボックスにパーティションを作成するサイズを入力し [適用] をクリックする。
14. 手順13で作成したパーティションを選択し、[フォーマット] をクリックする。
15. 以下の画面で、作成したパーティションを選択し [次へ] をクリックする。



次のメッセージが表示され、自動で Windows のインストールが開始します。

Windows のインストール中

必要な情報はすべて集まりました。インストール中にコンピュータは数回再起動されます。

- ✓ファイルのコピーをしています
- ファイルの展開中
- 機能のインストール中
- 更新プログラムのインストール中
- インストールの最終処理の実行中



ヒント

差分モジュールの入ったメディアがドライブにセットされたままの場合、OS インストールメディアと入れ替える旨のメッセージが表示されますので入れ替えを行ってください。

Windows のインストール – ディスク挿入

Windows インストールディスク 1 を挿入してください。

OK

キャンセル

16. 手順 7 で選択した（表示された）内容により手順が異なるため、以下を確認し進める。

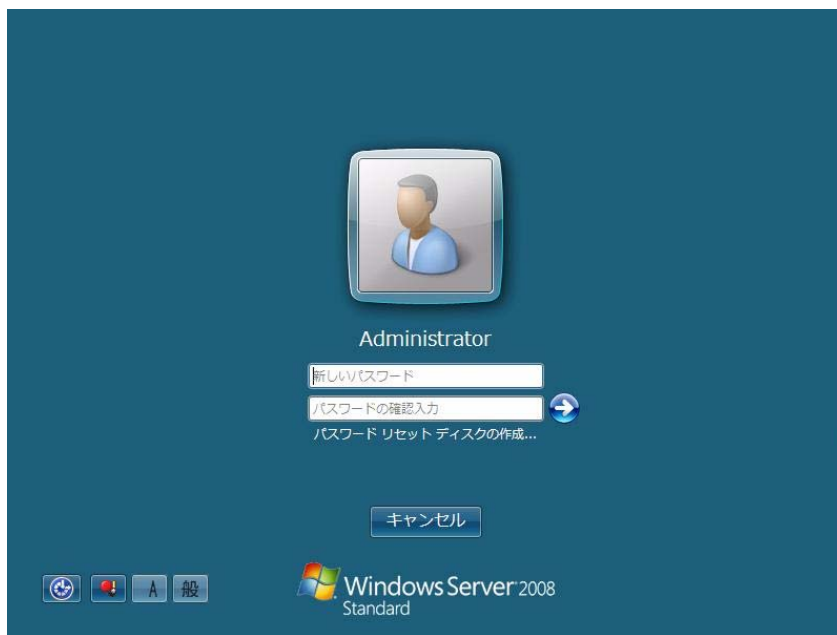
- “フルインストール” の場合
- “Server Core インストール” の場合

○ フルインストールの場合

- ① **Windows Server 2008** セットアップ完了後、ログオンする前に以下のパスワード変更を要求する画面が表示されるので、[OK] をクリックする。



② パスワードを変更し [🔄] をクリックする。



ヒント

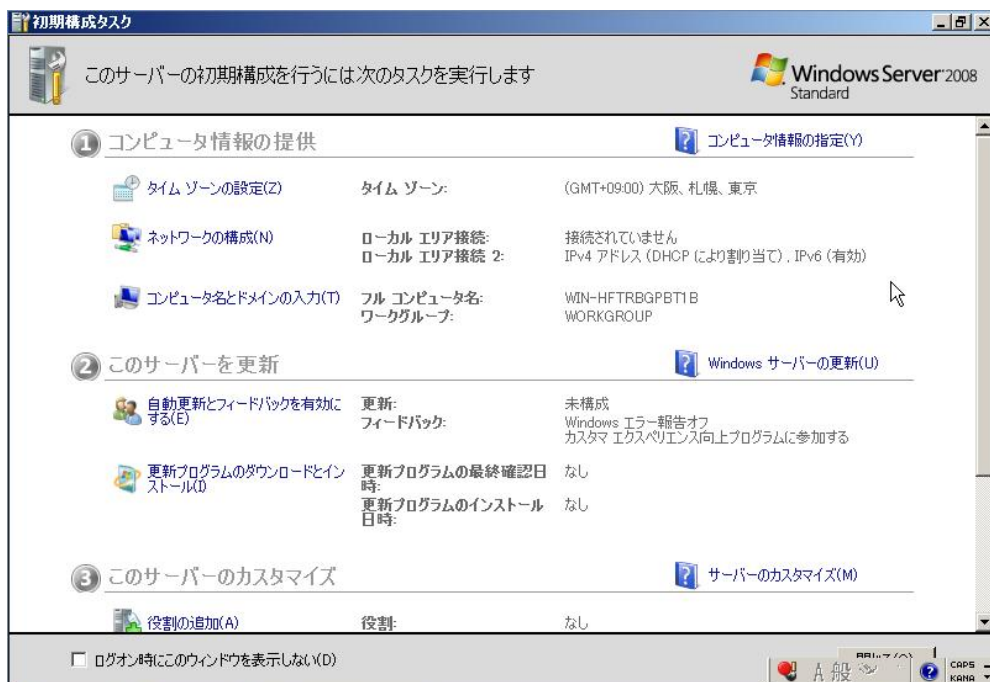
Windows Server 2008 ではパスワードが下記の条件を満たさない場合、設定することができません。

- 大文字、小文字および数字が混在すること
- また、パスワードは6文字以上を推奨します。

③ 以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。



- ④ ログオン後「初期構成タスク」画面が表示され、ユーザー情報を設定する。



○ Server Core の場合

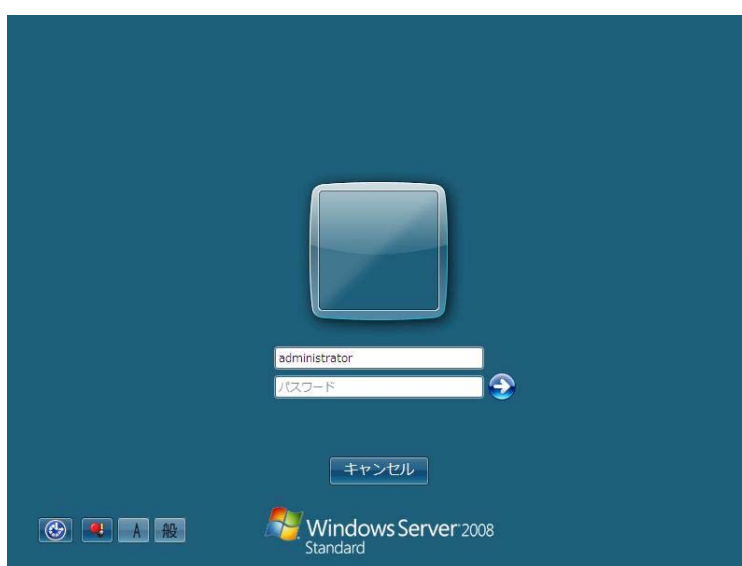
- ① Windows Server 2008 セットアップ完了後、以下のメッセージが表示されたら <Ctrl>+<Alt>+キーを押す。



- ② 以下の画面が表示されたら、「他のユーザー」を選択する。



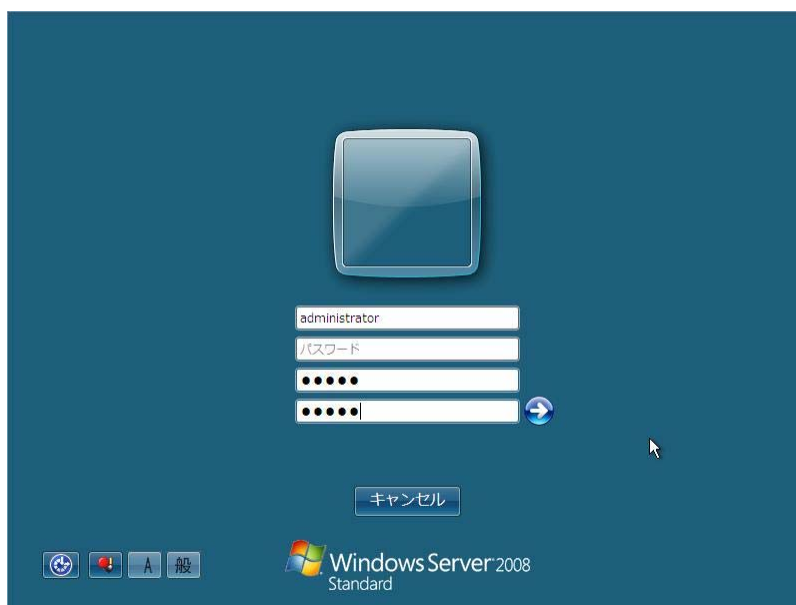
- ③ 以下の画面が表示されたら、「administrator」でログオンする。
ここではパスワード入力が必要ありません。[] をクリックしてください。



- ④ ログオンする前に以下パスワードの変更を要求する画面が表示されるので、[OK] をクリックする。



- ⑤ パスワードを変更し [→] をクリックする。



ヒント

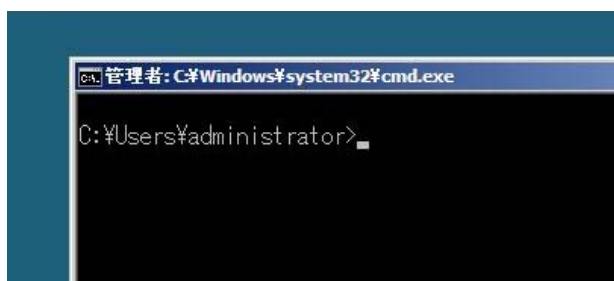
Windows Server 2008 ではパスワードが下記の条件を満たさない場合、設定することができません。

- 大文字、小文字および数字が混在すること
また、パスワードは6文字以上を推奨します。

- ⑥ 以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。



- ⑦ コマンドプロンプトが表示され、ユーザー情報を設定する。





ヒント

詳細な設定方法は、Microsoft 社「ステップ バイ ステップ ガイド」を参照してください。

17. 「修正モジュールの適用」を参照して修正モジュールの適用を行う。
(「5. 修正モジュールの適用」(25ページ)を参照)
18. 「システムのアップデート」を参照してシステムのアップデートを行う。
(「6. システムのアップデート」(26ページ)を参照)
19. 「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してドライバのインストールと詳細設定を行う。
(「7. ドライバのインストールと詳細設定」(28ページ)を参照)
20. 「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
(「8. 障害処理のためのセットアップ」(34ページ)を参照)

以上でインストールは完了です。

5 修正モジュールの適用

Windows Server 2008 のインストール後、必ず修正モジュールの適用を行ってください。

Windows Server 2008 を日本語で使用した場合、Active Directory の一部機能で予期しない動作をする場合があります。

NEC から購入した OS に「**Update-CD NEC Express5800 Windows Server 2008 修正モジュール (KB949304)**」CD-ROM が同梱されている場合は、CD-ROM から修正モジュールの適用をお願いします。

同梱されていない場合は、Microsoft 社の以下の URL を参照し修正モジュールを適用してください。

<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/updateinfo.msp>

6 システムのアップデート

Windows Server 2008 のインストール後、必ず以下の手順で「システムのアップデート」を行ってください。「システムのアップデート」は Express5800 シリーズ に必要なドライバを適用します。

差分モジュールは、「Windows Server 2008 をインストールするための準備」の「■差分モジュールのダウンロードについて」（6ページ）を参照し、ダウンロードしてください。



重要

次の場合も必ず「システムのアップデート」を行ってください。

- システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は [いいえ] をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合

1. 管理者権限のある ビルトイン Administrator で、システムにログオンする。

差分モジュールを CD-R にコピーして使用する場合は、光ディスクドライブにセットする。

2. スタートメニューから [ファイル名を指定して実行] の [名前] に以下を入力し [OK] をクリックし実行する。

<ドライブレター>: %wintt%bin%oschk%oschk.bat

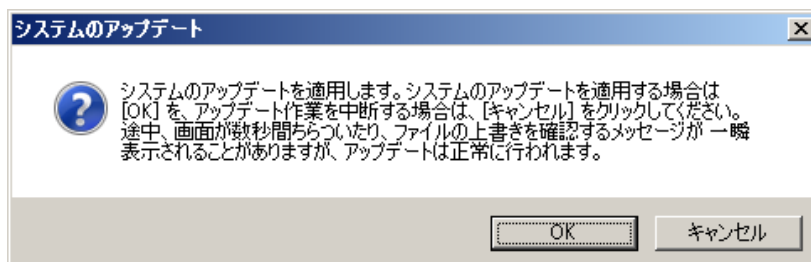


ヒント

例えば D ドライブの temp フォルダに差分モジュールがある場合

- フルインストール
「D:%temp%wintt%bin%oschk%oschk.bat」と入力し、[OK] をクリックする。
- Server Core インストール
 - ① コマンドプロンプトより以下を入力し、D ドライブを指定する。
cd /d D:% temp%wintt%bin%oschk
C:%Users%administrator>cd /d D:% temp%wintt%bin%oschk
 - ② 以下を入力し<Enter>キーを押す。
oschk.bat
D:% temp%wintt%bin%oschk>oschk.bat

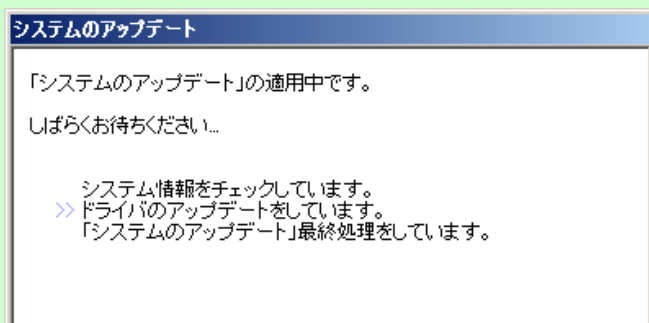
セットアップメッセージが表示されます。



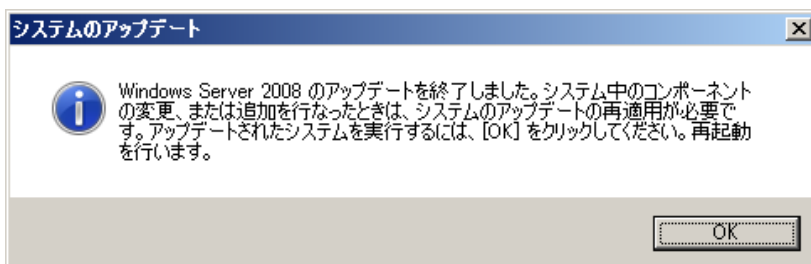
メッセージの内容を確認し、[OK]をクリックする。
「システムのアップデート」が開始します。



システムのアップデート中は **フルインストールの場合のみ**、次の進捗メッセージが表示されます。
アップデートが完了するまで、しばらくお待ちください。



3. 次のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックして再起動させる。



以上で、「システムのアップデート」は完了です。

7 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付されている説明書を参照してください。

■LAN ドライバと PROSet のインストール

LAN ドライバと PROSet はシステムのアップデート時にすべて自動でインストールされます。



チェック

ドライバおよび PROSet に関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator 等）でログオンして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしておりません。

○ N8104-125 を使用する場合の対応

システムのアップデート後に N8104-125 を使用する場合は下記の手順を実施後に、N8104-125 を接続した状態で再度システムのアップデートを実施してください。

<LAN ドライバと PROSet のアンインストール手順>

□ “フルインストール” の場合

1. 現在のネットワークアダプタやオプションネットワークボードの設定情報を控える。



ヒント

標準装備のネットワークアダプタやオプションネットワークボードでチーム（ネットワークアダプタのチーム化）を構成している場合はチームを削除してください。削除の前には IP アドレスなどの設定情報を控えておき、再インストール後に改めて設定してください。
チームの削除手順は[■アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ]に記述しています。

2. コントロールパネルより[プログラムのアンインストール]をクリックする。
3. [Intel(R) Network Connections 12.4.38.0]をダブルクリックする。
[インテル(R) ネットワークコネクション(オプションの削除)]が表示されます。
4. [オプションの削除]で削除項目が選択されているのでそのまま[削除]をクリックする。
[インテル(R) ネットワークコネクション - ソフトウェアの削除]が表示されます。
5. [はい]を選択する。
自動でアンインストールが開始されます。
6. [InstallShield ウィザードを完了しました。] と表示されるので [完了] をクリックする。

システムを再起動します。

以上で完了です。

□ “Server Core インストール” の場合

1. 現在のネットワークアダプタやオプションネットワークボードの設定情報を控える。



LAN ドライバの削除の前には IP アドレスなどの設定情報を控えておき、再インストール後に改めて設定してください。

ヒント

2. セットアッププログラムを格納している（差分モジュールをコピーした CD-R など）内にある以下の DxSetup.EXE をコマンドプロンプトから実行してください。

- Windows Server 2008 64-bit (x64) Editions

<ドライブレター> : %winnt%\ws2008x64\dl5\APPS\PROSETDX\Vistax64\DxSetup.EXE

- Windows Server 2008 32-bit (x86) Editions

<ドライブレター> : %winnt%\ws2008\dl5\APPS\PROSETDX\Vista32\DxSetup.EXE

3. InstallShield ウィザードが表示されるので、[次へ]をクリックする。
4. [削除(R)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [削除]をクリックする。
自動でアンインストールが開始されます。
6. [InstallShield ウィザードを完了しました。] と表示されるので [完了] をクリックする。

システムを再起動します。

以上で完了です。

■ オプションネットワークボード

Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj, 120Rh-1, 120Rj-2 の対応するオプションネットワークボードは下記のとおりです。

N8104-125 を使用する場合は上記の項の[○ N8104-125 を使用する場合の対応]（28ページ）の手順に従って設定を行ってください。

N8104-125 以外のオプションネットワークボードを接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。

Express5800/110EI の場合

[N8104-112/119/120/121/125]

Express5800/110Ri-1, i110Ri-1 の場合

[N8104-109/115/122/125]

Express5800/120Lj, 120Ei, 120Gd の場合

[N8104-112/119/120/121/125]

Express5800/120Rh-1, 120Rj-2 の場合

[N8104-119/120/121/122/125]

■ アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでチームを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にチーム内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでチームを作り、サーバから送受信パケットをチームすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能は AFT 機能を含んでいます。本機能の対象は、標準装備のネットワークアダプタとオプションネットワークボードです。



重要

- Server Core を使用時、ネットワークアダプタのチーム化は対応しておりません。
- AFT/ALB のセットアップは、システムのアップデート後、必ず再起動した後に行う必要があります。

<チームのセットアップ手順>

1. コントロールパネルより[システムとメンテナンス]配下の[デバイスマネージャを開く]をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。
2. [ネットワークアダプタ]を展開し[Intel(R)~]をダブルクリックする。
3. [チーム化]のタグを選択し、[その他のアダプタとチーム化する]にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
4. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
5. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。



重要

1 つのチームに含められるアダプタは2つまでです。アダプタを3つ以上含めたチーム構成での運用は未サポートです。

6. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
8. [デバイスマネージャ]より、上記の手順で設定したチームのアダプタをダブルクリックでプロパティを開き、[設定]のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
9. チーム内のアダプタに対しプライマリ/セカンダリ設定を行う場合、以下の操作を行う。
 - プライマリ設定
プライマリに設定するアダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。
 - セカンダリ設定
セカンダリに設定するアダプタを選択し、「セカンダリの設定」をクリックする。

プライマリ/セカンダリ設定を完了した後、[OK]をクリックして画面を閉じる。



ヒント

プライマリ/セカンダリ設定は以下の手順で確認できます。

- 1) チームのアダプタのプロパティ内にある[設定]タブを表示する。
- 2) [チーム内のアダプタ]の各アダプタに表示されているプライマリ/セカンダリを確認する。

10. [設定]のタグのまま[スイッチのテスト]をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、[テストの実行] をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

システムを再起動する。

以上で完了です。

<チームの削除手順>

1. コントロールパネルより [システムとメンテナンス]配下の[デバイスマネージャを開く]をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。
2. [ネットワークアダプタ]を展開しチームのアダプタをダブルクリックする。
3. [設定]タグを選択して[チームの削除]をクリックする。
4. [チーム設定]のポップアップが表示されるので[はい]をクリックする。
5. デバイスマネージャのネットワークアダプタ配下に[チーム:チーム名]がないことを確認する。

システムを再起動する。

以上で完了です。



重要

- アダプタフォルトトレランス(AFT)のチームとして指定するネットワークアダプタは、同一スイッチングハブ(L2)に接続されることを推奨します。異なるスイッチングハブ(L2)でも使用できますが、異なるスイッチングハブ(L2)に接続する場合は、すべて同一 LAN (同一ネットワーク) 上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブ(L2)にのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

■ ネットワークドライバのセットアップ

<転送速度の設定>

システムのアップデート後は次の手順に従って、ネットワークアダプタへ転送速度と Duplex モードの設定をしてください。また、IP アドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてから IP アドレスの設定してください。

1. コントロールパネルより[システムとメンテナンス]配下の[デバイスマネージャを開く]をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。

2. [ネットワークアダプタ]を展開し、[Intel(R) ~]のアダプタをダブルクリックする。
3. [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定する。
4. ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<受信側スケージングのセッティング>

Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1 での Onboard LAN : Intel(R) PRO/1000 PL Network Connection を使用する場合は下記の手順の操作を行ってください。

1. コントロールパネルより [システムとメンテナンス] 配下の [デバイスマネージャを開く] をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャより、[ネットワークアダプタ]を展開し[Intel(R) PRO/1000 PL Network Connection]のプロパティを開く。
3. [詳細設定]タグを選び、[受信側スケージング]をオフに変更し、[OK]をクリックする。

システムを再起動する。
以上で完了です。

<WOL のセットアップ>

WOL(Wake On Lan)の設定を行います。

以下の手順を参照し、ネットワークアダプタの設定を行ってください。

1. コントロールパネルより [システムとメンテナンス] 配下の [デバイスマネージャを開く] をクリックし、[デバイスマネージャ] を起動する。
2. ネットワークアダプタを展開し、[Intel(R)~]のアダプタをダブルクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティが表示されます。
3. [電力の管理]タブを選択し、[Wake On LAN]内に下記の項目にチェックを入れる。
 - Wake On Directed Packet
 - Wake On Magic Packet
 - 電源オフ状態からの Wake On Magic Packet



ヒント

Wake On Directed Packet, Wake On Magic Packet はデフォルトでチェックが入っています。

4. ネットワークアダプタのプロパティの[OK]をクリックする。
5. すべてのウィンドウを閉じて、システムの再起動を行う。

■ SCSI コントローラ(N8103-75/95/107)を使用する場合

SCSI コントローラ(N8103-75/95/107)を使用する場合、または追加で接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

■ Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合

Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合、または追加で接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

■ グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは差分モジュールから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。



ヒント

グラフィックスアクセラレータドライバはフルインストール時にのみ有効です。Server Core インストールの場合は、標準 VGA での運用となります。

ドライバを個別に再インストールしたいときは、次の手順に従ってください。

1. スタートメニューから[プログラム]-[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

差分モジュールを CD-R にコピーし使用する場合は、光ディスクドライブにセットする。

2. 「<ドライブレター> : %winnt%\ws2008\video」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

※ Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合は
「<ドライブレター> : %winnt%\ws2008x64\video」ディレクトリ内の
[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

3. 以降はメッセージに従って作業を進める。

途中、「デジタル署名が見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。

4. インストール後、システムを再起動する。

以上で完了です。

8 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

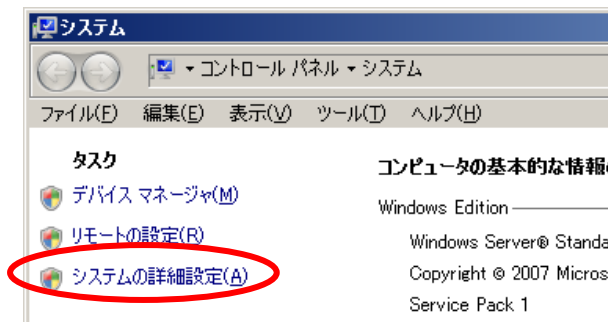


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

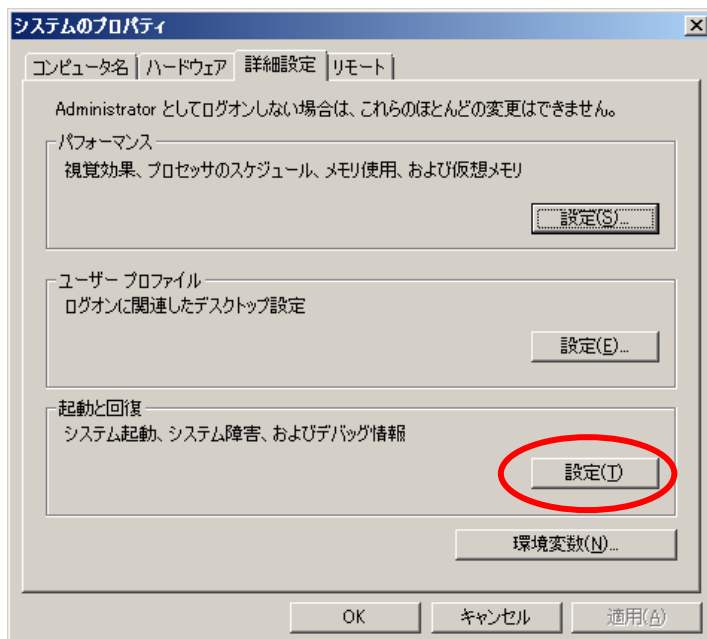
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから [コントロールパネル] を選び、[システム] をクリックする。
[システム] ダイアログボックスが表示されます。
2. [システムの詳細設定] をクリックする。



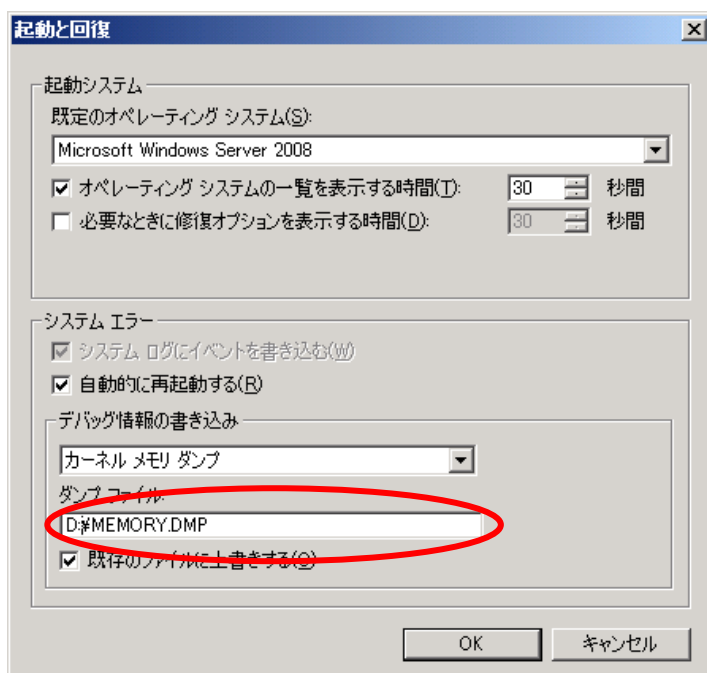
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. 「起動と回復」ボックスの「設定」をクリックする。



4. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>
D:¥MEMORY.DMP





重要

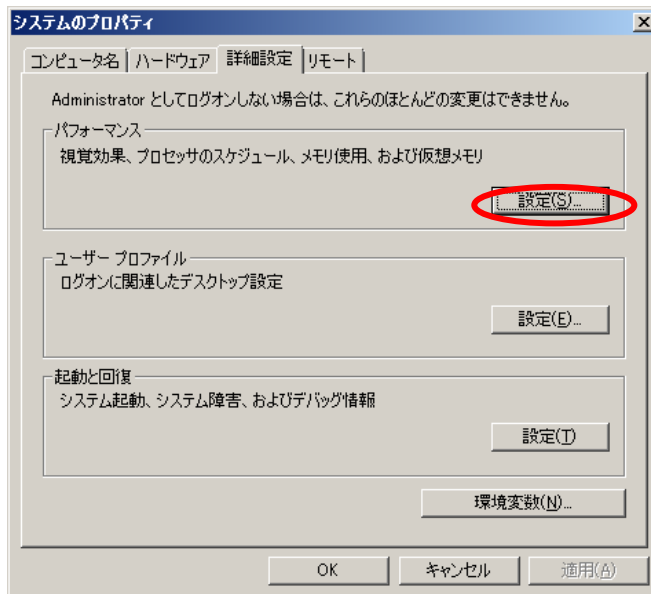
Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

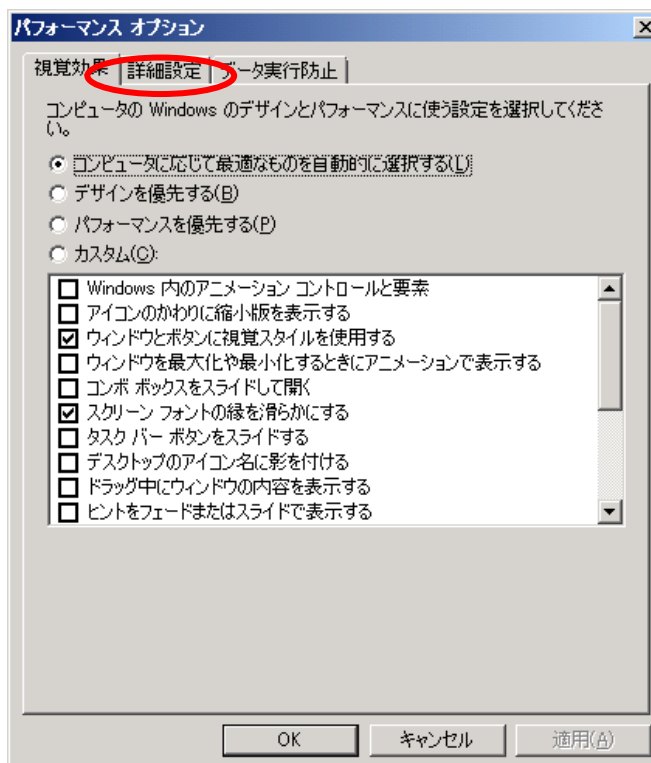
Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上 (メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+300MB 以上) の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

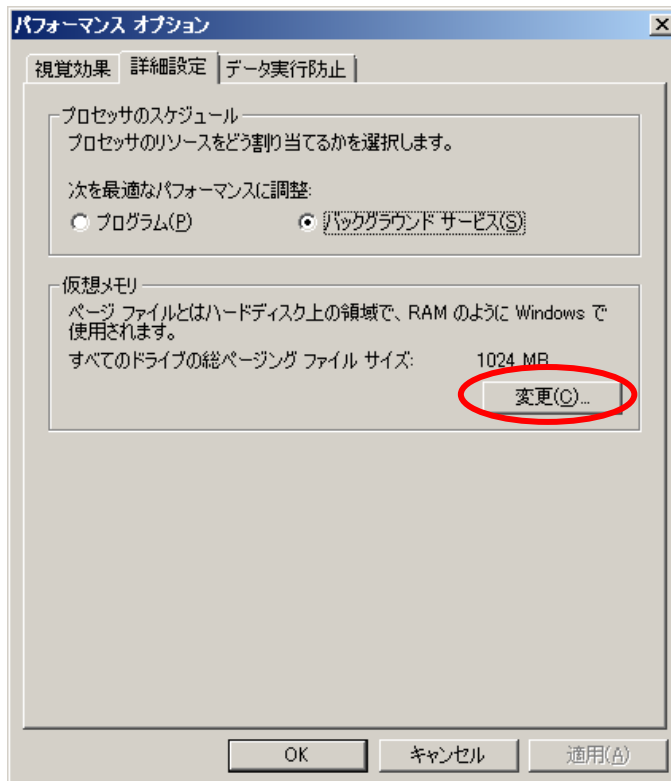
5. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



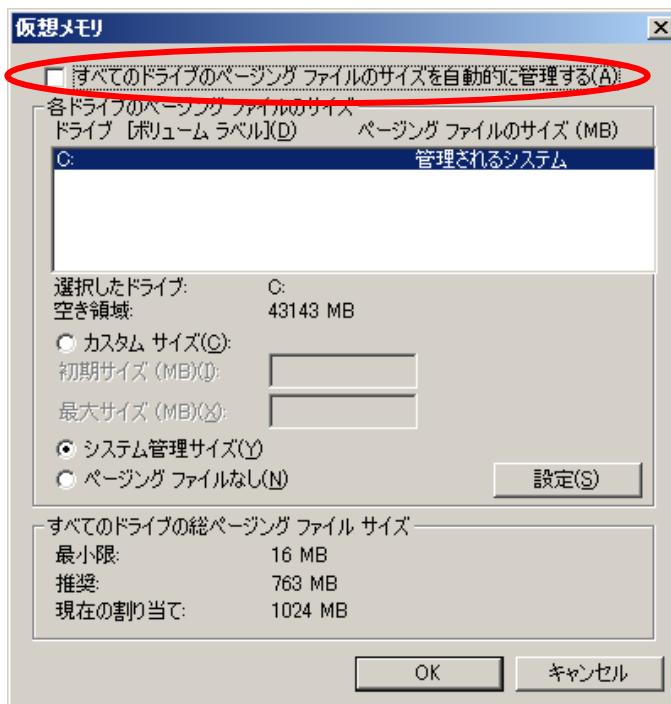
6. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



7. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



8. [すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する] のチェックボックスのチェックをはずし、[カスタムサイズ] にチェックをする。



9. [各ドライブのページングファイルのサイズ] ボックスの [初期サイズ] を [すべてのドライブの総ページング ファイルサイズ] ボックスに記載されている推奨値以上に、[最大サイズ] を [初期サイズ] 以上に変更し、[設定] をクリックする。

仮想メモリ

すべてのドライブのページング ファイルのサイズを自動的に管理する(A)

各ドライブのページング ファイルのサイズ

ドライブ [ボリューム ラベル](D)	ページング ファイルのサイズ (MB)
C:	763 - 1024

選択したドライブ: C:
空き領域: 69802 MB

カスタム サイズ(C):
初期サイズ (MB)(I): 763
最大サイズ (MB)(X): 1024

システム管理サイズ(S)
 ページング ファイルなし(N)

設定(S)

すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ

最小限:	16 MB
推奨:	763 MB
現在の割り当て:	1024 MB

OK キャンセル



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

10. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

以上で完了です。

■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして [タスク マネージャ] をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押下して [タスクマネージャ] を起動する。
2. [プロセス] タブをクリックする。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプファイルの作成] をクリックする。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:\Users\%(ユーザー名)\AppData\Local\Temp



ヒント

上記のフォルダは隠し属性となっている場合があります。フォルダが表示されない場合は、エクスプローラの [ツール] から [フォルダオプション] を選択し、[表示] タブから [すべてのファイルとフォルダを表示する] にチェックをして下さい。

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記 4. のフォルダより取得してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下の Microsoft 社のサポート技術情報を参照してください。

「Windows Server 2008 でユーザーモードプロセスダンプを取得する方法」

<http://support.microsoft.com/kb/949180/ja>



ヒント

Windows Server 2008 では、ワトソン博士は [問題のレポートと解決策] に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。

■ ネットワークモニタのセットアップ手順

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。



ヒント

Windows Server 2008 には、ネットワークモニタが含まれておりません。Windows Server 2008 においてネットワークトレースを採取するためには、Microsoft 社より提供されております Microsoft Network Monitor をセットアップする必要があります。

1. Microsoft 社の Web サイトよりネットワークモニタをダウンロードします。
Information about Network Monitor 3
<http://support.microsoft.com/kb/933741/en-us>
2. ダウンロードしたファイルを実行して、インストーラを起動します。
その後、画面の指示に従ってインストールを実施します。



ヒント

[セキュリティの警告]ポップアップが表示された場合は、[実行]ボタンをクリックしてください。

セットアップ形式を選択する画面では、[Complete] を選択してください。

以上でネットワークモニタのセットアップは完了です。



ヒント

ネットワークモニタを削除する場合は、[プログラムと機能]から行います。

■ ネットワークトレースの採取手順

1. スタートメニューから Microsoft Network Monitor を起動します。
2. [Start Page] から、[Create a new capture tab...] もしくは [File] メニューの [New] を展開し、[Capture...] をクリックします。

新たにネットワークトレース採取用のタブが作成されます。

3. [Select Networks] ウィンドウで採取対象のネットワークを選択します。
4. [Capture] メニュー上の [Start] をクリックしてネットワークトレースの採取を開始します。
5. [Capture] メニュー上の [Stop] をクリックしてネットワークトレースの採取を終了します。
6. [File] メニューの [Save As...] を選択します。
[名前を付けて保存] ウィンドウが表示されますので、[Frame selection] 内の [All captured frames] を選択後、適切なフォルダ、ファイル名を指定します。



ヒント

既定では、以下のフォルダが指定されています。

C:\Users\%<User name>\Documents\Network Monitor 3\Captures

7. [保存]をクリックします。
6. で指定したフォルダにファイルが作成されます。

9 ライセンス認証の手続き

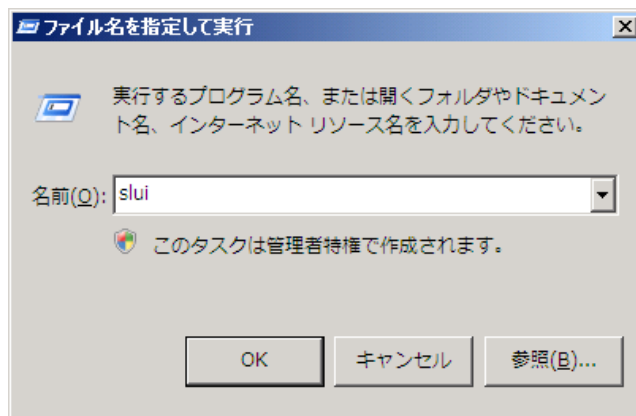
Windows Server 2008 をご使用いただくためには、Windows Server 2008 のライセンス認証の手続きが必要です。ライセンス認証済みか確認し、必要であれば手続きを行ってください。手続きはインターネットに接続した環境で行ってください。

ライセンス認証の手続きを次に示します。

○ フルインストールの場合

1. スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」をクリックする。次を入力し<Enter>キーを押してください。

slui

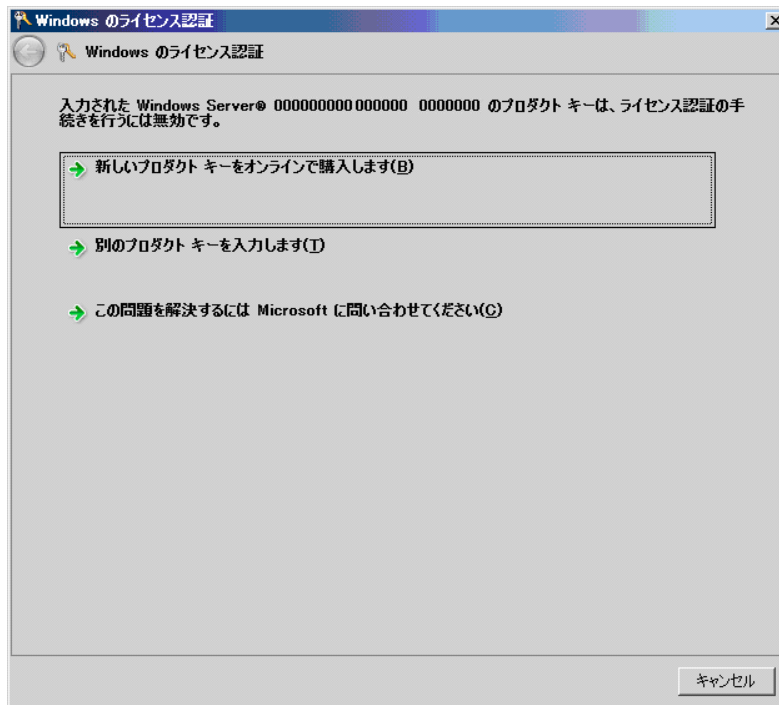


重要

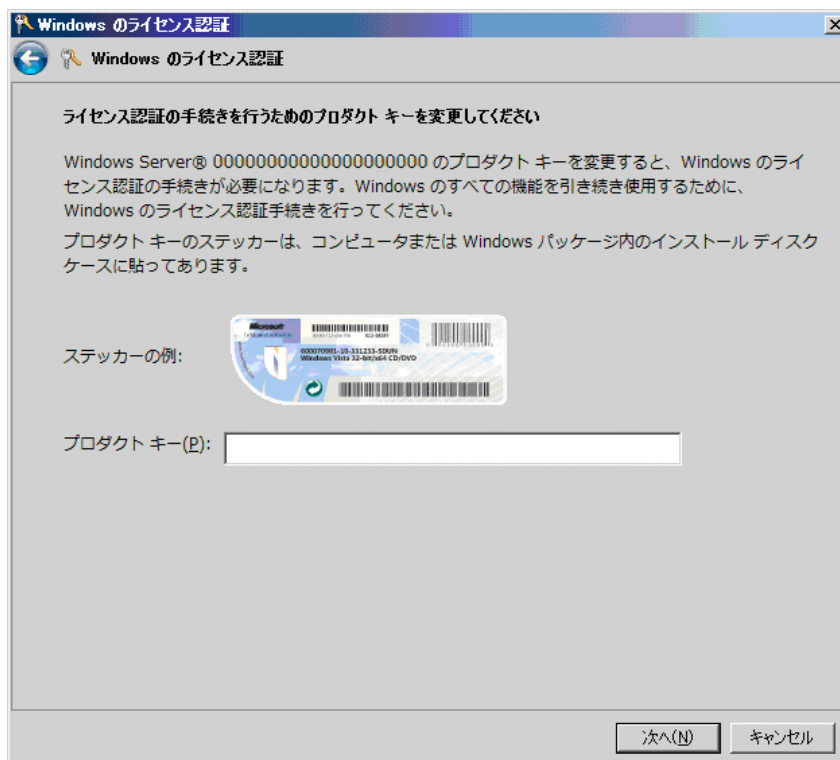
次のメッセージが表示されたら、ライセンス認証済みです。手続きの必要はありません。[閉じる] をクリックして終了してください。



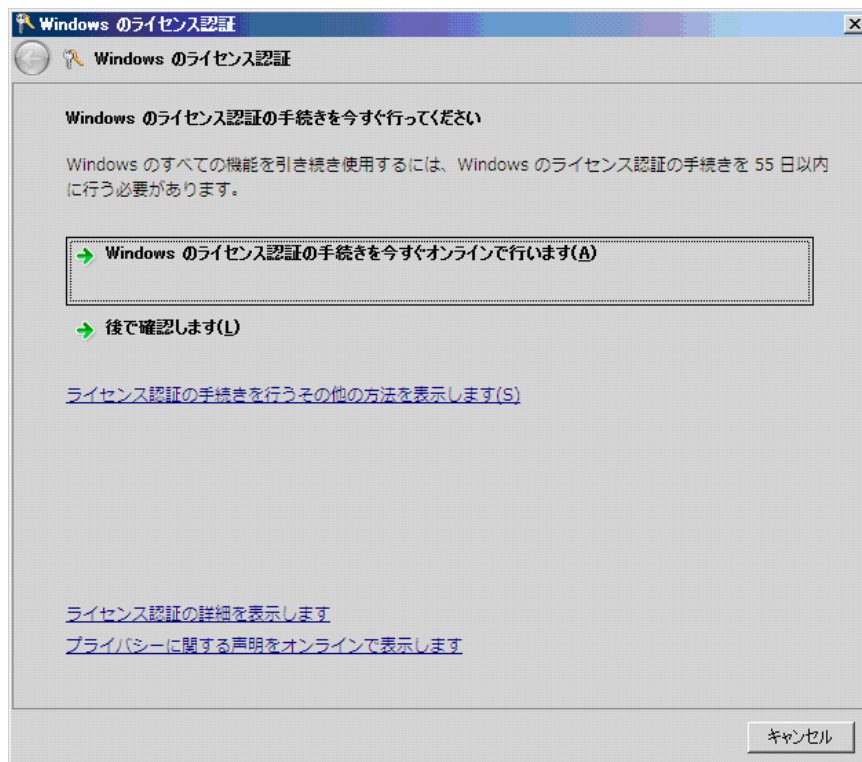
2. バックアップ DVD を使用してインストールした場合は、プロダクトキーの入れ替えを行う。
以下の画面が表示されたら、[別のプロダクトキーを入力します]をクリックします。



3. 以下の画面が表示されたら、COA ラベルのプロダクトキーを入力して、[次へ]をクリックする。



4. 次のメッセージに従って、ライセンス認証の手続きを行う。

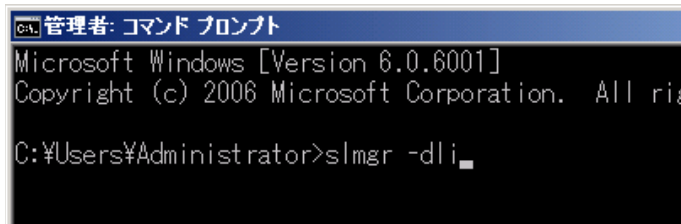


以上で「ライセンス認証の手続き」は完了です。

○ ServerCore インストールの場合

1. コマンドプロンプトから次を入力し<Enter>キーを押す。

Slmgr -dli



```
管理: 管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>slmgr -dli
```



重要

次のメッセージが表示されたら、ライセンス認証済みです。
手続きの必要はありません。[閉じる] をクリックして終了してください。



2. バックアップ DVD を使用してインストールした場合は、プロダクトキーの入れ替えを行います。コマンドプロンプトから次へを入力し、<Enter>キーを押す。
<PID>には COA ラベルのプロダクトキーを設定する。

slmgr -ipk <PID>

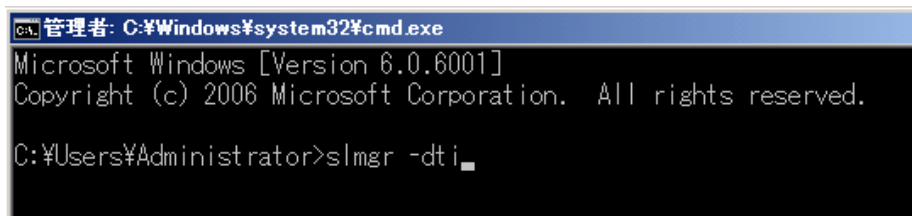


```
管理: 管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>slmgr -ipk XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

3. ライセンス認証を行うためのインストール ID の取得を行います。
コマンドプロンプトから次を入力し、<Enter>キーを押す。

slmgr -dti



```
管理: 管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>slmgr -dti
```

4. %systemroot%\system32\slui\phone.inf を参照し、ライセンス認証のコールセンターの電話番号を確認します。
5. ライセンス認証のコールセンターに電話し、手順3で取得したインストール ID を知らせる。
6. 手順5で受け取った確認 ID を入力します。
コマンドプロンプトに次を入力し、<Enter>キーを押す。
<CID>はコールセンターから受け取った、確認 ID を設定する。

slmgr -atp <CID>



```
C:\管理: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>slmgr -atp xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx
```

以上で [ライセンス認証の手続き] は完了です。

10 トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は、修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしてください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2008 にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザズガイドを参照してください。



Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合があります。

イベント ID : 134
ソース : Microsoft-Windows-Time-Service
種類 : 警告
説明 : 'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー: Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベント ID : 263
ソース : PlugPlayManager
種類 : 警告
説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベント ID : 7000
ソース : Service Control Manager
種類 : エラー
説明 : Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。'

イベント ID : 15016
ソース : Microsoft-Windows-HttpEvent
種類 : エラー
説明 : サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある。

イベント ID : 63
ソース : Microsoft-Windows-WMI
種類 : 警告
説明 : プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelINCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。



システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある。

イベント ID : 11
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
説明 : 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) PRO/1000 ~

イベント ID : 13
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
説明 : Intel(R) PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベント ID : 16
ソース : IANSMiniport
種類 : なし
説明 : [チーム]:、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベント ID : 22
ソース : iANSMiniport
種類 : 警告
説明 : プライマリアダプタは次のプローブを検出できませんでした。
Intel(R) 1000~ 原因でチームが分割されている可能性があります。

→ ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。



Windows Server 2008 のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合があります。

イベント ID : 10
ソース : VDS 動的なプロバイダ
説明 : ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。 hr = 80042505

→ 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/948275/ja>

11 Windows Server 2008 のアップグレードインストール

Windows Server 2003 から Windows Server 2008 へアップグレードインストールを行う場合は、次の内容を最後までよくお読みください。

■ Windows Server 2008 へのアップグレードインストールについて

Windows Server 2003 から Windows Server 2008 へのアップグレードインストールは推奨しません。Windows Server 2008 をご使用になる場合は「Windows Server 2008 のインストール」（15 ページ参照）を参照し、事前に必要なユーザーデータのバックアップを取り、Windows Server 2008 をインストールしなおしてください。

また、Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition から Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition や Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition から Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition のアップグレードインストールはできません。Windows Server 2008 without Hyper-V の場合も同様です。Windows Server 2008 without Hyper-V から Windows Server 2008 や、Windows Server 2008 から Windows Server 2008 without Hyper-V の場合も同様です。

■ アップグレードインストールをする前に

● 注意事項

- Windows Server 2008 がサポートしているアップグレードパスが以下の通りです。

【Windows Server 2003 Standard 64-bit (x64) Edition の場合】

- Windows Server 2008 Standard 64-bit (x64) Edition
- Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 64-bit (x64) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise 64-bit (x64) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 64-bit (x64) Edition

【Windows Server 2003 Enterprise 64-bit (x64) Edition の場合】

- Windows Server 2008 Enterprise 64-bit (x64) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 64-bit (x64) Edition

【Windows Server 2003 Standard 32-bit (x86) Edition の場合】

- Windows Server 2008 Standard 32-bit (x86) Edition
- Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit (x86) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise 32-bit (x86) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit (x86) Edition

【Windows Server 2003 Enterprise 32-bit (x86) Edition の場合】

- Windows Server 2008 Enterprise 32-bit (x86) Edition
- Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit (x86) Edition

※ Windows Server 2008 へのアップグレードパスは、「フルインストール」のみです。

- 既にインストール済みの Windows Server 2003 は、Service Pack 1 以降の環境が必要です。
- 異なるアーキテクチャ間でのアップグレードはサポートしていません。
(例) Windows Server 2003 32-bit (x86) Edition から Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition

- Windows Server 2008 フルインストールと Server Core インストール間でのアップグレードインストールはサポートしていません。
- アップグレードインストールを実施する為には、システムをインストールするパーティションサイズに十分な空き容量が必要です。本書の「■システムパーティションのサイズについて」（12ページ）を参照してください。

●グラフィックアクセラレータドライバについて

既に運用中の装置において、Windows Server 2003 から Windows Server 2008 へのアップグレードインストールを行う場合は、あらかじめインストール済みのグラフィックアクセラレータドライバを削除する必要があります。

次の手順に従って作業を進めてください。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]—[プログラムの追加と削除]をクリックする。
2. プログラム一覧から[Matrox Graphics Software (remove only)]を選択し、[変更と削除] をクリックする。
3. 以降はメッセージに従ってアンインストールをする。
4. アンインストール後、システムを再起動する。

●PROSet について

既に運用中の装置において、PROSet をインストールしていた場合、Windows Server 2003 から Windows Server 2008 へのインプレースアップグレードを行う前にあらかじめインストール済みの PROSet を削除する必要があります。

次の手順に従って作業を進めてください。

1. 現在のネットワークアダプタやオプションネットワークボードの設定情報を控える。

標準装備のネットワークアダプタやオプションネットワークボードでチームを構成している場合はチームを削除してください。削除の前には IP アドレスなどの設定情報を控えておき、アップグレードインストール後に改めて設定してください。Windows Server 2003 時のチームの削除方法については下記の手順を参照してください。

<チームの削除方法>

- 1) デバイスマネージャを起動する。
 - 2) ネットワークアダプタを展開しチームのアダプタをダブルクリックする。
 - 3) [設定]タグを選択して[チームの削除]をクリックする。
 - 4) [チーム設定]のポップアップが表示されるので[はい]をクリックする。
 - 5) デバイスマネージャのネットワークアダプタ配下に[チーム:チーム名]がないことを確認する。
 - 6) システムを再起動する。
2. スタートメニューから[設定]—[コントロールパネル]の順でポイントし、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

3. プログラム一覧から[Intel (R) PRO Network Connections xx.xx.xx.xx]を選択し、[変更と削除]をクリックする。

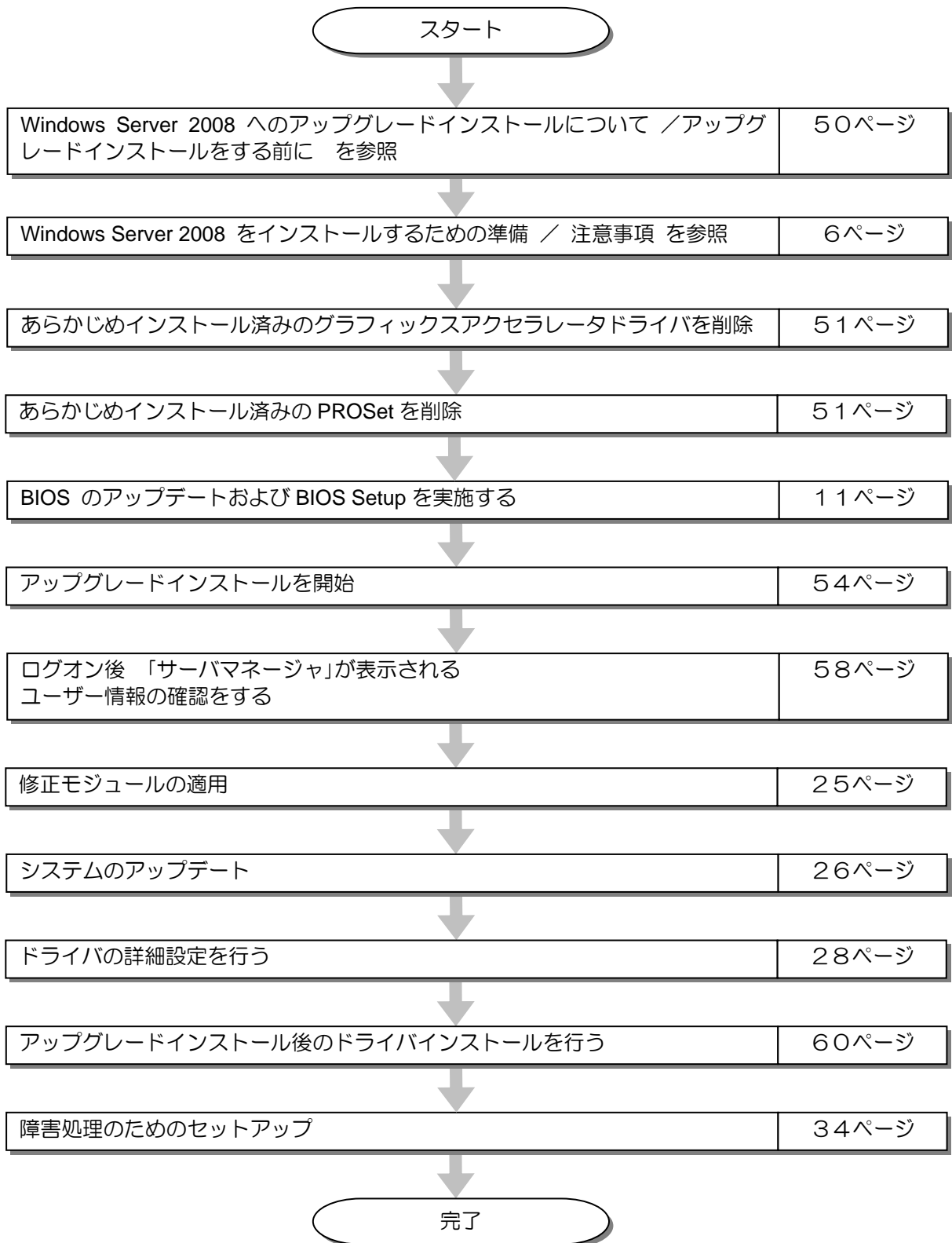
※ xx.xx.xx.xx は運用中の装置により異なります。

4. 以降はメッセージに従ってアンインストールをする。

アンインストール後、システムを再起動する。

■ アップグレードインストール手順概要

Windows Server 2008 のアップグレードインストール方法概略図を次に示します。
必ず、あらかじめインストール済みのグラフィックスアクセラレータドライバや PROSet を削除してください。



■アップグレードインストール

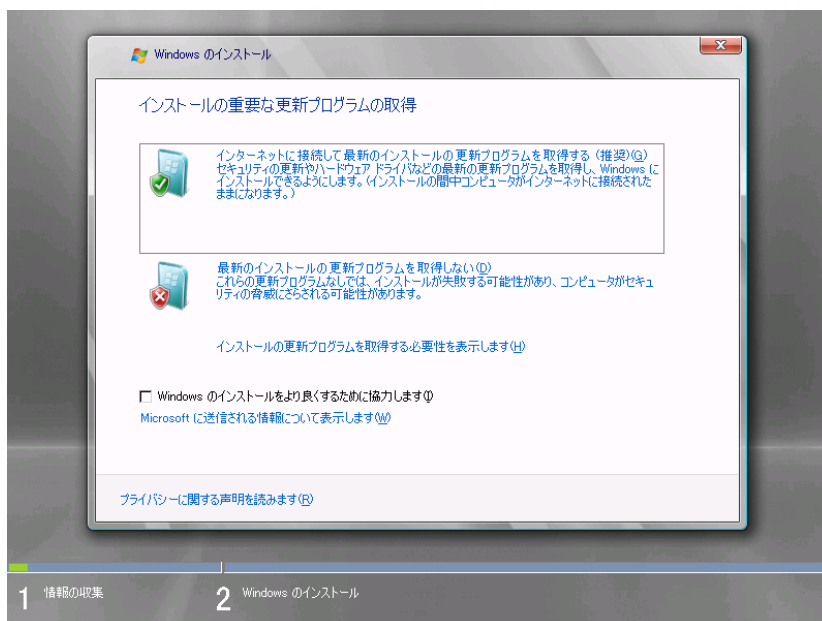
ここでは Windows Server 2003 32-bit (x86) Edition から Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition へアップグレードインストール方法について説明します。

必ずグラフィックスアクセラレータドライバを削除してから行ってください。

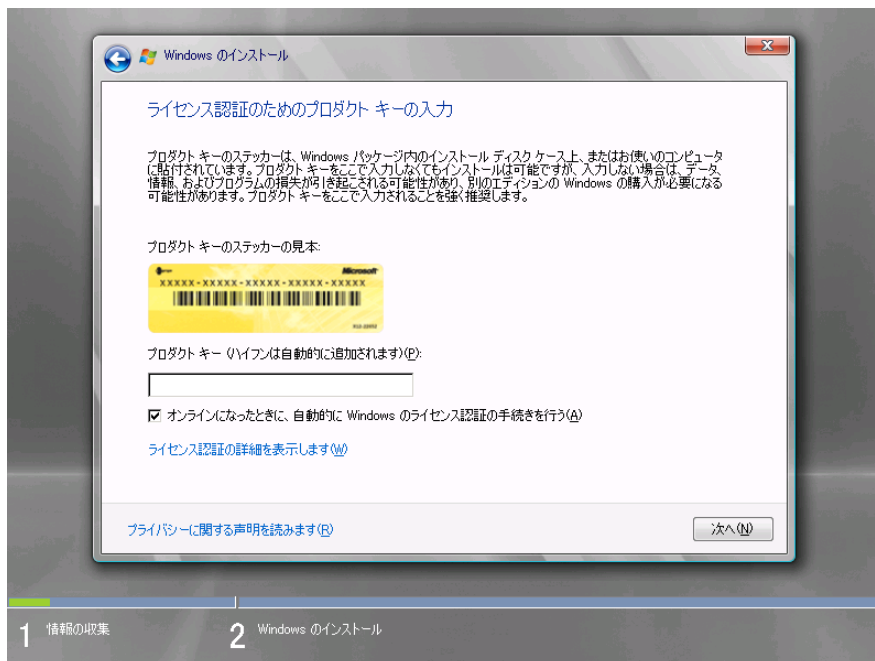
1. Windows Server 2003 が起動している状態で、Windows Server 2008 の OS インストールメディアを光ディスクドライブにセットする。
2. 次の画面が表示されたら、[今すぐインストール] をクリックする。



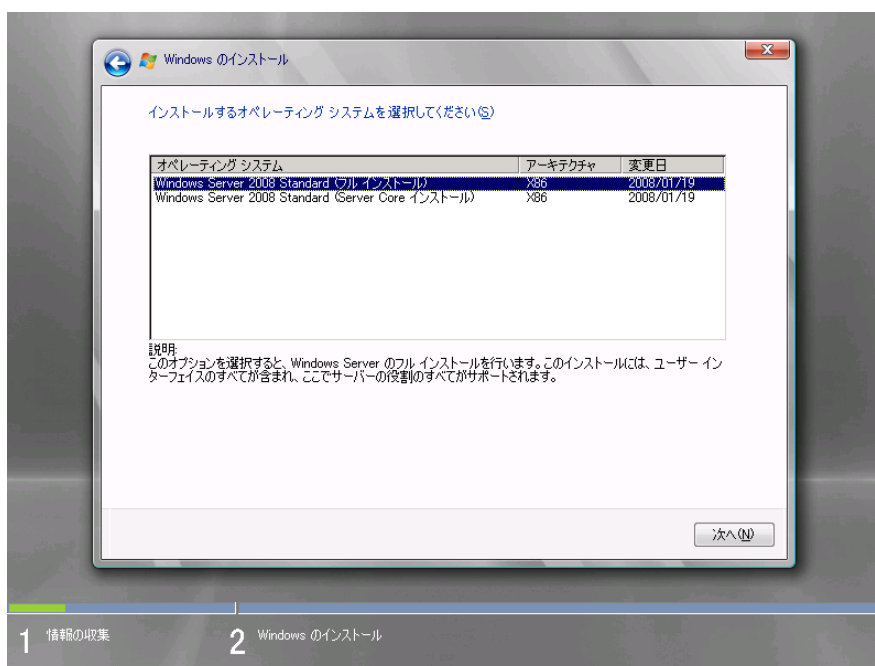
3. 次の画面が表示されたら、更新プログラムの取得についていずれかを選択する。



4. 次の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックする。

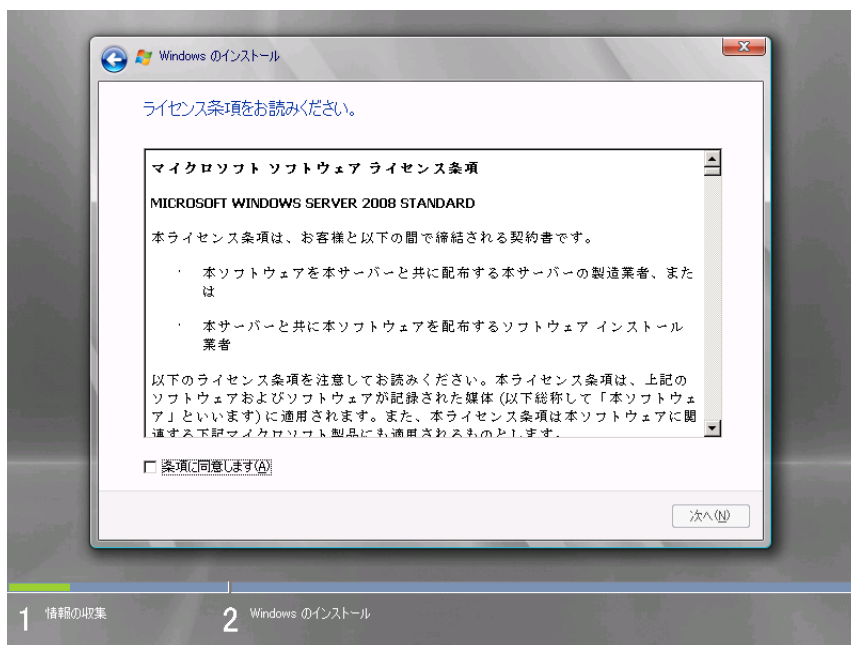


5. 次の画面が表示されたら、インストールする Windows エディション（フルインストール）を選択し、[次へ]をクリックする。

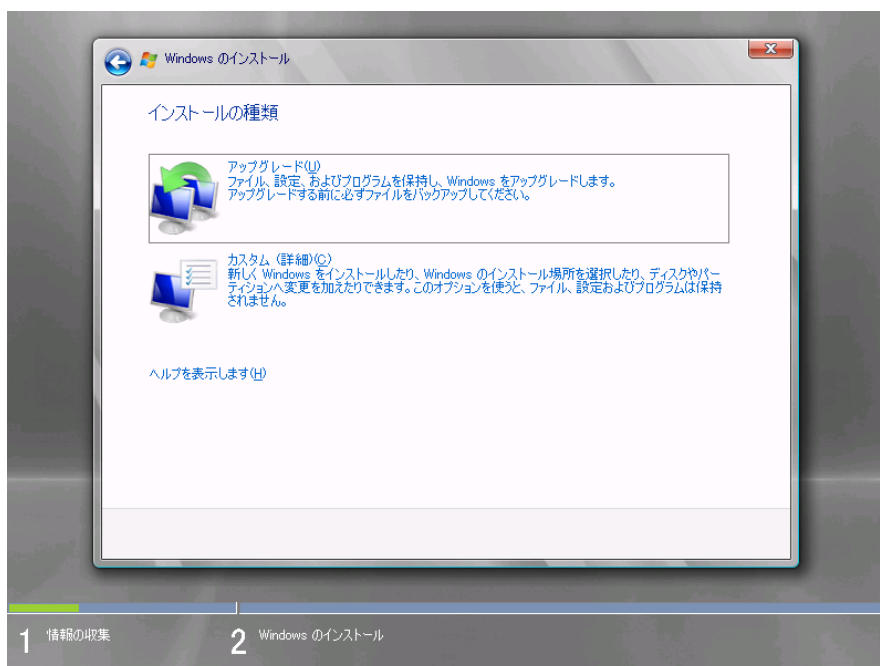


アップグレード可能なエディションの詳細については「**■アップグレードインストールをする前に**」（50ページ）を参照してください。

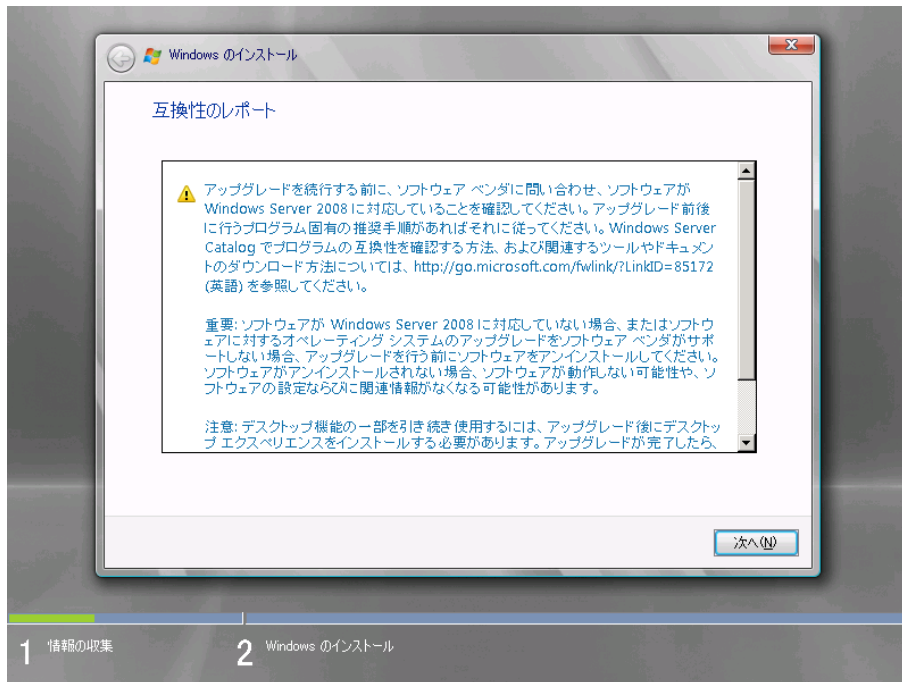
6. 次の画面が表示されたら、ライセンス条項の内容を確認し、同意する場合は[条項に同意します。]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



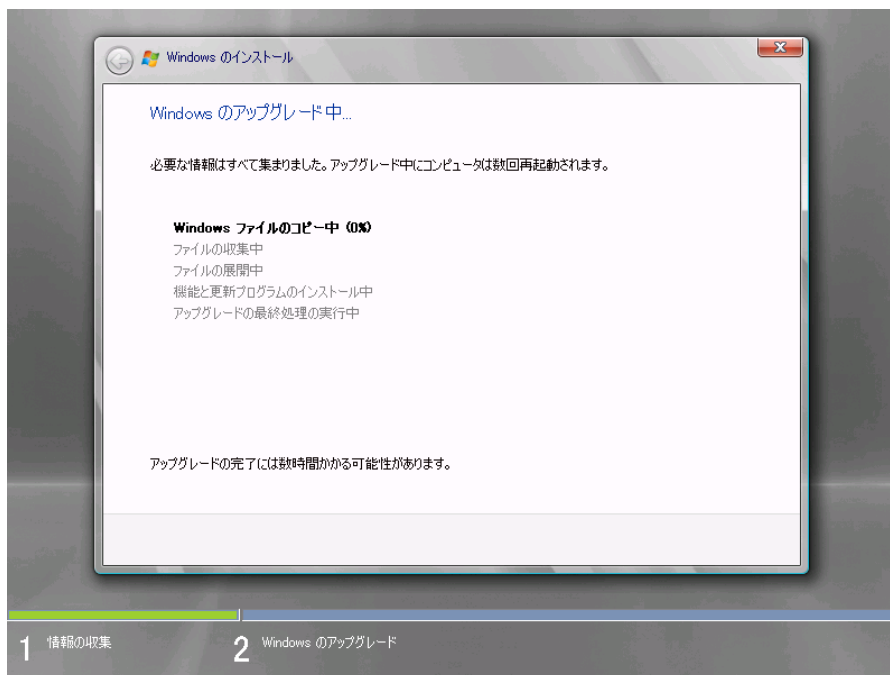
7. 次の画面が表示されたら、[アップグレード]を選択する。



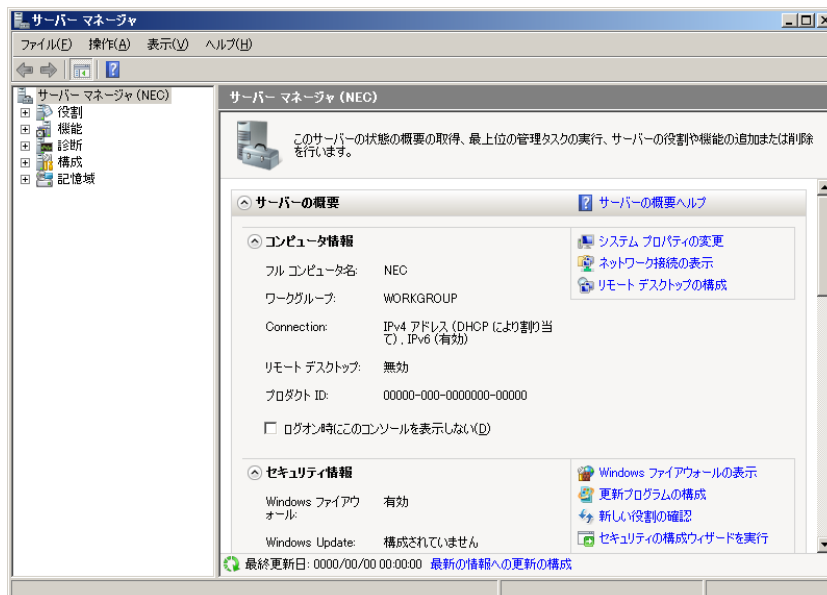
8. 次の画面が表示されたら内容を確認し、[次へ]をクリックする。



9. 次の画面が表示されます。

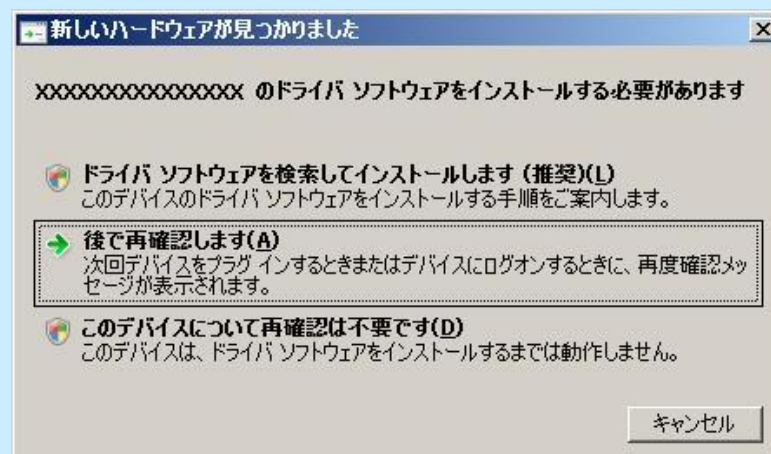


10. Windows Server 2008 セットアップ完了後、ログオンする。
11. Windows Server 2003 で パスワードの設定をしている場合は、パスワードを入力し [] をクリックする。
12. ログオン後、「サーバマネージャ」画面が表示されたら、ユーザ設定を確認する。



ヒント

アップグレードインストール後、次のメッセージが複数回表示される場合がありますが [キャンセル] をクリックし作業を進めてください。



13. 「修正モジュールの適用」を参照して修正モジュールの適用を行う。
(「5. 修正モジュールの適用」(25 ページ) を参照)
14. 「システムのアップデート」を参照してシステムのアップデートを行う。
(「6. システムのアップデート」(26 ページ) を参照)
15. 「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してドライバのインストールと詳細設定を行う。
(「7. ドライバのインストールと詳細設定」(28 ページ) を参照)

16. Windows Server 2008 のアップグレードインストールした場合、ドライバのインストールを行う。（「■アップグレードインストール後のドライバのインストール」（60ページ）を参照）
17. 「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
（「8. 障害処理のためのセットアップ」（34ページ）を参照）

以上で完了です。

■ アップグレードインストール後のドライバインストール

Windows Server 2008 のアップグレードインストール後、必ず以下の手順でドライバのインストールを行ってください。



重要

ご使用している環境によって、複数のドライバインストールが必要になる事があります。

● 本体装置内蔵の RAID コントローラ を使用する場合

RAID コントローラ(N8103-116/117/118) を使用する場合

本体装置内蔵の RAID コントローラ(N8103-116 相当) を使用している場合、および RAID コントローラ(N8103-116/117/118) を使用する場合、以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. サーバマネージャを起動する。
2. [診断]→[デバイスマネージャ]を起動し、記憶域コントローラの [LSI Logic MegaRAID SAS 8708EM2 RAID Controller]を右クリックし、[ドライバ ソフトウェアの更新(P)]を選択する。
3. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面が表示されたら、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します。(R)]を選択する。
4. [コンピュータ上でのドライバソフトウェアを参照します。] 画面が表示されたら、[コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します] を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [このハードウェアのためにインストールするデバイスドライバを選択してください。] 画面が表示されたら、[ディスク使用(H)]をクリックする。
6. [フロッピーディスクからのインストール]画面が表示されたら、[製造元のファイルのコピー元(C):]でドライバを格納している（差分モジュールをコピーした CD-R など）フォルダパスを選択し[OK]をクリックしてください。

Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合
＜ドライブレター＞：¥winnt¥oemfd¥ws2008x64¥fd1

Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合
＜ドライブレター＞：¥winnt¥oemfd¥ws2008¥fd1

7. [ドライバ ソフトウェアの更新]画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
ドライバのインストールが開始されます。
8. ドライバのインストールが完了後、[ドライバ ソフトウェアが正常に更新されました。] 画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。
9. [今コンピュータを再起動しますか?] 画面が表示されたら、[はい]を選択する。

システムが再起動します。

以上で、ドライバのアップデートは完了です。

●ATA/ATAPI コントローラのドライバインストール

Express5800/120Lj を除く全てのモデルで ATA/ATAPI コントローラのドライバインストールが必要です。以下の手順でドライバをインストールしてください。



重要

ご使用されているモデルによって手順が異なります。
ご使用のモデルの手順でドライバのインストールをしてください。

【Express5800/110EI, 110Ri-1, i110Ri-1 の場合】

1. サーバマネージャを起動する。
2. [診断]→[デバイスマネージャ]を起動し、[IDE ATA/ATAPI コントローラ]の [Intel(R) ICH9 SATA AHCI Controller]を右クリックし、[ドライバ ソフトウェアの更新(P)]を選択します。
3. [ドライバ ソフトウェアの更新] 画面が表示されますので、[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します。(R)]を選択する。
4. [コンピュータ上でのドライバソフトウェアを参照します。]画面が表示されたら、[コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選択してください。]画面が表示されたら、[Standard AHCI 1.0 Serial ATA Controller]を選択し、[次へ]をクリックする。

ドライバのインストールが開始されます。

6. ドライバのインストールが完了後、[ドライバ ソフトウェアが正常に更新されました。]画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。
7. [今コンピュータを再起動しますか?]と画面に表示されたら、[はい]を選択する。

システムが再起動します。



ヒント

再起動後、再起動が必要な旨ポップアップが表示される場合は再起動を実施してください。

以上でドライバのアップデートは完了です。

【Express5800/120Ei, 120Gd,120Rh-1,120Rj-2 の場合】

1. サーバマネージャを起動する。
2. [診断]→[デバイスマネージャ]を起動し、[IDE ATA/ATAPI コントローラ]の [Intel(R) 631xESB/632xESB SATA AHCI Controller]を右クリックし、[ドライバ ソフトウェアの更新(P)]を選択する。

3. [ドライバ ソフトウェアの更新] 画面が表示されたら、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します。(R)] を選択する。
4. [コンピュータ上でのドライバソフトウェアを参照します。]画面が表示されたら、[コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します] を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選択してください。] 画面が表示されたら、[Standard AHCI 1.0 Serial ATA Controller]を選択し、[次へ]をクリックします。

ドライバのインストールが開始されます。

6. ドライバのインストールが完了後、[ドライバ ソフトウェアが正常に更新されました。] 画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。
8. [今コンピュータを再起動しますか?]画面が表示されたら、[はい]を選択する。

システムが再起動します。



ヒント

再起動後、再起動が必要な旨ポップアップが表示される場合は再起動を実施してください。

以上でドライバのアップデートは完了です。

●SCSI コントローラ(N8103-107)を使用する場合

SCSI コントローラ(N8103-107)を使用している場合、または追加接続する場合、以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. サーバマネージャを起動する。
2. [診断]→[デバイスマネージャ]を起動し、[記憶域コントローラ]の [Adaptec SCSI Card 29320LPE - Ultra320 SCSI]を右クリックし、[ドライバ ソフトウェアの更新(P)]を選択する。
3. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面が表示されたら、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します。(R)] を選択する。
4. [コンピュータ上でのドライバソフトウェアを参照します。]画面が表示されたら、[コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します] を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選択してください。」画面が表示されたら、[Adaptec SCSI Card 29320LPE PCI-e - Ultra320 SCSI]を選択し、[次へ]をクリックする。

ドライバのインストールが開始されます。

6. ドライバのインストールが完了後、[ドライバ ソフトウェアが正常に更新されました。] 画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。
7. [今コンピュータを再起動しますか?]画面が表示されたら、[はい]を選択する。

システムが再起動します。



ヒント

再起動後、再起動が必要な旨ポップアップが表示される場合は再起動を実施してください。

以上でドライバのアップデートは完了です。

●SCSI コントローラ(N8103-75)を使用する場合

SCSI コントローラ(N8103-75)を使用している場合、または追加接続する場合、以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. サーバマネージャを起動する。
2. [診断]→[デバイスマネージャ]を起動し、[記憶域コントローラ]の [Adaptec SCSI Card 29320LPE - Ultra320 SCSI]を右クリックし、[ドライバ ソフトウェアの更新(P)]を選択します。
3. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面が表示されたら、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します。(R)]を選択する。
4. [コンピュータ上でのドライバソフトウェアを参照します。]画面が表示されたら、[コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します] を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選択してください。] 画面が表示されたら、

<Windows Server 2008 64-bit (x64) Edition の場合>

Adaptec SCSI Card 29320ALP - Ultra320 SCSI バージョン: 7.2.0.0[2007/01/25]

<Windows Server 2008 32-bit (x86) Edition の場合>

Adaptec SCSI Card 29320ALP - Ultra320 SCSI バージョン: 7.2.0.0[2007/01/25]

を選択し、[次へ]をクリックする。

ドライバのインストールが開始されます。

6. ドライバのインストールが完了後、[ドライバ ソフトウェアが正常に更新されました。] 画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。
7. [今コンピュータを再起動しますか?]画面が表示されたら、[はい]を選択する。

システムが再起動します。



ヒント

再起動後、再起動が必要な旨ポップアップが表示される場合は再起動を実施してください。

以上でドライバのアップデートは完了です。

●SCSI コントローラ(N8103-95)を使用する場合

SCSI コントローラ(N8103-95)を使用する場合、または追加で接続する場合、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

●Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合

Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を使用する場合、または追加で接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。